

【No. 1】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ウヤク	2.0g
	〃	トウキ	2.0g
	〃	シャクヤク	2.0g
	〃	コウブシ	2.0g
	〃	サンザシ	2.0g
	〃	チンピ	2.0g
	〃	ブクリョウ	1.0g
	〃	ビャクジュツ	1.0g
	〃	ビンロウジ	1.0g
	〃	エンゴサク	1.0g
	〃	タクシャ	1.0g
	〃	モッコウ	0.6g
	〃	カンゾウ	0.6g
	〃	ショウキョウ	1.0g
全 量			19.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1 包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	下腹部の痛み、乳腺の痛み		
貯蔵方法及び 有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	烏苓通気散料		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ウヤク** 紡錘形又はところどころくびれた連珠状を呈し、長さ 10～15cm、径 10

～25mm である。外面は黄褐色～褐色を呈し、わずかに細根の跡がある。横断面の皮部は褐色、木部は淡黄褐色を呈し、褐色の同心性の輪及び放射状の線がある。質はち密で堅い。樟脳様のにおいがあり、味は苦い。

横切片を鏡検するとき、周皮を残すものでは数層のコルク層がありコルク層の一部はコルク石細胞からなる。油細胞及び繊維を含む皮部柔組織が認められることがある。木部では道管及び木部繊維と、放射組織が交互に配列する。皮部及び木部の柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの砂晶及び柱状晶、径 1～15 μ m の単粒のでんぷん粒及び 2～4 粒からなる複粒のでんぷん粒を含む。

必要に応じて、「ウヤク」の確認試験を準用する。

(2) トウキ 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μ m 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μ m に達し、しばしばのり化している。

(3) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(4) コウブシ 外面は灰褐色～灰黒褐色を呈し、不整な輪節があり、その部分に一方に向かって多数の毛がある。質は堅く、横断面は赤褐色～淡黄色を呈し、ろうようのつやを帯び、皮層部の厚さは中心柱の径とほぼ等しいか又はわずかに薄い。横断面をルーペ視するとき、外面は繊維束が褐色のはん点として輪状に並び、皮層部にはところどころに維管束が赤褐色のはん点として、また分泌細胞が黄褐色の微小なはん点として多数存在する。中心柱には多数の維管束が点又は線として散在する。わずかに特異なおい及び味がある。

(5) サンザシ ほぼ球形で、径 8～14mm である。外面は黄褐色～灰褐色を呈し、細かい網目状のしわがあり、一端には径 4～6mm のくぼみがあって、その周辺にはしばしばがくの基部が残存し、他端には短い果柄又はその残基がある。真果は通例 5 室でしばしば 5 個に分裂する。この分果の長さは 5～8mm、淡褐色を呈し、通例、各々 1 個の種子を含む。

ほとんどにおいがなく、わずかに酸味がある。

中央部の横切片を鏡検するとき、最外層は比較的厚いクチクラ層で覆われた表皮からなる。クチクラは表皮細胞の側壁まで入り込みくさび状を呈する。表皮細胞及びその直下の 2～3 層の柔細胞中には黄褐色～赤褐色の内容物が認められる。その内側は柔組織からなり、維管束が散在し、単独又は 2～数個集まった石細胞が多数出現する。シュウ酸カルシウムの集晶及び単晶が認められる。真果の果皮は主として厚壁細胞よりなる。種子は種皮で覆われ、その内側に周乳、内乳、子葉を認める。真果の果皮の厚壁細胞中及び種皮の細胞中にシュウ酸カルシウム単晶が認められる。

必要に応じて、「サンザシ」の確認試験を準用する。

(6) チンピ 外面は黄赤色～暗黄褐色で、油室による多数の小さいくぼみがあり、内面は白色～淡灰黄褐色である。厚さ約 2mm で、質は軽くてもろい、芳香があり、味は苦くて、わずかに刺激性である。

必要に応じて、「チンピ」の確認試験を準用する。

(7) ブクリョウ 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(8) ビャクジュツ 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(9) ビンロウジ 灰褐色の種皮が白色の胚乳中に入り込んで大理石のような模様を呈する。味は渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「ビンロウジ」の確認試験を準用する。

(10) エンゴサク ほぼ偏球形又はこぶ状突起のある多角形を呈し、径 1～2cm で、一端に茎の跡がある。外面は灰黄色又は灰褐色で質は堅く、切断面は黄色で平滑又は灰黄緑色で粒状である。味は苦い。

必要に応じて、「エンゴサク」の確認試験を準用する。

(11) **タクシャ** 淡黄褐色～淡褐色でコルク層を付ける部位はやや暗色を呈する。ルーペ視するとき、褐色～淡褐色のはん点が散在する。切面は粒状で、繊維性ではない。わずかににおい及び味がある。

(12) **モッコウ** 外面は黄褐色～灰褐色で、あらい縦じわがある。横断面は黄褐色～暗褐色で、ルーペ視するとき、環状暗色の形成層が認められ、木部組織と放射組織が放射状の模様を呈し、ところどころに大きな裂け目と褐色の油室が散在している。特異なにおいがあり、味は苦い。

必要に応じて、「モッコウ」の確認試験を準用する。

(13) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(14) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なにおいがあり、味は極めて辛い。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 5%以下。

【No. 2】 K●●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	マオウ	4.0～6.0g
	〃	セッコウ	8.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	カンゾウ	1.5～2.0g
	〃	ビャクジュツ	3.0g
	〃	タイソウ	4.0g
	全 量		21.5～24.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品1包に水約500mLを加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を3回に分けて食間に服用する。上記は大人の1日量である。15才未満7才以上 大人の2/3，7才未満4才以上 大人の1/2，4才未満2才以上 大人の1/3，2才未満 大人の1/4以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上で，冷えがあつて，むくみがあり，のどが渇き，汗が出て，ときに尿量が減少するものの次の諸証：むくみ，関節のはれや痛み，筋肉痛，湿疹・皮膚炎，夜尿症，目のかゆみ・痛み		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	越婢加朮湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し，長さ 3～10mm，径 1～2mm，淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり，節部には，長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し，その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき，円形～だ円形で，周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し，中心部には赤緑色の物質が充満しているか，又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く，やや麻ひ性である。

必要に応じて，「マオウ」の確認試験を準用する。

(2) **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(3) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なにおいがあり、味は極めて辛い。

(4) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかなで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(5) **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髄を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髄及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(6) **タイソウ** 外面は赤褐色であらいいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は扁平である。わずかに特異なにおいがあり、味は甘い。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 設定しない

【No. 2－①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	マオウ	4.0～6.0g
	〃	セッコウ	8.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	カンゾウ	1.5～2.0g
	〃	ソウジュツ	5.0g
	〃	タイソウ	4.0g
	全 量		21.5～24.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品1包に水約500mLを加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を3回に分けて食間に服用する。上記は大人の1日量である。15才未満7才以上 大人の2/3，7才未満4才以上 大人の1/2，4才未満2才以上 大人の1/3，2才未満 大人の1/4以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上で，冷えがあつて，むくみがあり，のどが渇き，汗が出て，ときに尿量が減少するものの次の諸証：むくみ，関節のはれや痛み，筋肉痛，湿疹・皮膚炎，夜尿症，目のかゆみ・痛み		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	越婢加朮湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し，長さ 3～10mm，径 1～2mm，淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり，節部には，長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し，その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき，円形～だ円形で，周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し，中心部には赤緑色の物質が充満しているか，又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く，やや麻ひ性である。

必要に応じて，「マオウ」の確認試験を準用する。

(2) **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で，におい及び味はない。砕く

とたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(3) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(4) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(5) ソウジュツ 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(6) タイソウ 外面は赤褐色であらいいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 設定しない

【No. 3】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	レンギョウ	3.0g
	〃	オウゴン	3.0g
	〃	サンシシ	3.0g
	〃	キキョウ	3.0g
	〃	ハッカ	2.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	ダイオウ	1.0g
	〃	セッコウ	10.0g
全 量			26.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1 包として製する。		
用法及び用量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，熱いうちに煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。 本剤は必ず 1 日分ずつ煎じ，数日分をまとめて煎じないこと。		
効能又は効果	体力中等度以上で，胃腸の調子がすぐれないものの次の諸症：口内炎，口の中の炎症		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	加減涼膈散（浅田）料		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

（１） **レンギョウ** 外面は淡褐色～暗褐色を呈し，淡灰色の小隆起点が散在し，内面は黄褐色である。味はない。

必要に応じて，「レンギョウ」の確認試験を準用する。

（２） **オウゴン** 外面は黄褐色～暗褐色を呈し，切断面は黄色～帯褐黄色を呈し，縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて，「オウゴン」の確認試験を準用する。

(3) **サンシシ** 果皮は薄く砕きやすく、その外面は赤褐色、黄赤色又は黒褐色を呈し、内面は黄褐色を呈し、平らでつやがある。果実の内部は 2 室に分かれ、黄赤色～暗赤色の果肉中に黒褐色又は黄赤色で長径約 5mm の偏平な種子の団塊を含む。質は軽い。弱いにおいがあり、味は苦い。

必要に応じて、「サンシシ」の確認試験を準用する。

(4) **キキョウ** 外面は皮付きは灰褐色、皮去りは白色～淡褐色を呈し、繊維性でない。横切面をルーペ視するとき、皮部は木部よりやや薄く、ほとんど白色で、ところどころにすき間があり、形成層の付近はしばしば褐色を帯びる。皮部の厚さは木部の径よりやや薄く、ほとんど白色で、ところどころにすき間があり、木部は白色～淡褐色を呈し、その組織は皮部よりもやや密である。味は初めなく、後にえぐくて苦い。

必要に応じて、「キキョウ」の確認試験を準用する。

(5) **ハッカ** 上面は淡褐黄色～淡緑黄色、下面は淡緑色～淡緑黄色である。葉をルーペ視するとき、両面に毛、腺毛及び腺りんをまばらに認め、腺毛及び腺りんは下面に多い。特異な芳香があり、口に含むと清涼感がある。

必要に応じて、「ハッカ」の確認試験を準用する。

(6) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(7) **ダイオウ** 暗褐色～黄褐色～淡褐色を呈し、ルーペ視すると入り組んだ不規則な模様がある。質はおおむね粗で繊維性ではない。特異なにおいがあり、味はわずかに渋くて苦い。かめば細かい砂をかむような感じがあり、だ液を黄色に染める。

必要に応じて、「ダイオウ」の確認試験を準用する。

(8) **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 設定しない

【No. 4】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	レンギョウ	3.0g
	〃	オウゴン	3.0g
	〃	サンシシ	3.0g
	〃	キキョウ	3.0g
	〃	オウレン	1.0g
	〃	ハッカ	1.0g
	〃	トウキ	3.5g
	〃	ジオウ	3.5g
	〃	キジツ	1.0g
	〃	シャクヤク	3.5g
	〃	カンゾウ	1.0g
	全 量		26.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度で、胃腸の調子がすぐれないものの次の諸症：口内炎、口の中の炎症		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	加減涼膈散（龔廷賢）料		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **レンギョウ** 外面は淡褐色～暗褐色を呈し、淡灰色の小隆起点が散在し、内面は黄褐色である。特異な芳香があり、味はわずかに収れん性である。

必要に応じて、「レンギョウ」の確認試験を準用する。

(2) **オウゴン** 外面は黄褐色～暗褐色を呈し、切断面は黄色～帯褐黄色を呈し、縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて、「オウゴン」の確認試験を準用する。

(3) **サンシシ** 果皮は薄く砕きやすく、その外面は赤褐色～黄褐色又は黒褐色を呈し、内面は黄褐色を呈し、平らでつやがある。果実の内部は2室に分かれ、黄赤色～暗赤色の果肉中に黒褐色又は黄赤色で長径約5mmの扁平な種子の団塊を含む。質は軽い。特異なおいがあり、味は苦い。

必要に応じて、「サンシシ」の確認試験を準用する。

(4) **キキョウ** 外面は皮付きは灰褐色、皮去りは白色～淡褐色を呈し、繊維性でない。横切面をルーペ視するとき、皮部は木部よりやや薄く、ほとんど白色で、ところどころにすき間があり、形成層の付近はしばしば褐色を帯びる。木部は白色～淡褐色を呈し、その組織は皮部よりもやや密である。味は初めなく、後にえぐくて苦い。

必要に応じて、「キキョウ」の確認試験を準用する。

(5) **オウレン** 根茎の径は2～7mmで、外面は灰黄褐色～褐色を呈し、輪節及び多数の根の基部を認め、横断面はやや繊維性で、コルク層は淡灰褐色、皮部は黄褐色、木部は黄色、髄は黄褐色である。味は極めて苦く、残留性で、だ液を黄色に染める。

横切片を鏡検するとき、コルク層は薄膜のコルク細胞からなり、皮部柔組織中にはコルク層に近い部位に石細胞群、形成層に近い部位に黄色の師部繊維の認められるものが多い。木部は主として道管、仮道管、木部繊維からなり、放射組織は明らかで、髄は大きく、髄中には石細胞あるいは厚膜木化した細胞を伴った石細胞を認めることがある。柔細胞には細かいでんぷん粒を含むが、結晶を含まない。

必要に応じて、「オウレン」の確認試験を準用する。

(6) **ハッカ** 上面は淡褐黄色～淡緑黄色、下面は淡緑色～淡緑黄色である。葉をルーペ視するとき、両面に毛、腺毛及び腺りんをまばらに認め、腺毛及び腺りんは下面に多い。特異な芳香があり、口に含むと清涼感がある。

必要に応じて、「ハッカ」の確認試験を準用する。

(7) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は4～10層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。

形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μ m 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μ m に達し、しばしばのり化している。

(8) ジオウ 外面は黄褐色～黒褐色を呈し、深い縦みぞ及びくびれがある。質は柔らかく粘性である。横断面は黄褐色～黒褐色で、皮部は木部より色が濃く、ほとんど髄を認めない。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 7～15 層で、皮部はすべて柔細胞からなり、外皮部に褐色の分泌物を含む細胞が散在する。木部はほとんど柔細胞で満たされ、放射状に並ぶ道管は側孔のある網紋があり、弱い木化反応を呈する。**ニンジン** 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

(9) キジツ 外面は濃緑褐色～褐色で、つやがなく、油室による多数のくぼんだ小点がある。切断面は淡灰褐色を呈し、内果皮を付ける部分は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は苦い。

必要に応じて、「キジツ」の確認試験を準用する。

(10) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(11) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 5】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方 カンゾウ 4.0g 〃 カンキョウ 2.0g 全量 6.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。
用法及び用量	本品 1包に水約 200mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，熱いうちに煎じかすを除き，煎液を 2 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3，7才未満 4才以上 大人の 1/2，4才未満 2才以上 大人の 1/3，2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。
効能又は効果	体力虚弱で，手足が冷え，薄い唾液が口に溜まるものの次の諸症：頻尿，尿もれ，唾液分泌過多，鼻炎，しゃっくり，めまい
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器
規格及び試験方法	別記のとおり。
備 考	甘草乾姜湯

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり，切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では，皮部と木部の境界はほぼ明らかで，放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき，皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し，師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し，道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い，ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み，またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

（２） カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2～4cm、径 1～2cm である。外面は灰黄色～灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色～暗褐色で透明感があり角質である。横切面をルーペ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 6】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	カンゾウ	2.0g
	〃	ブシ	0.5～1.0g
	〃	ビャクジュツ	4.0g
	〃	ケイヒ	3.5g
	全 量		10～10.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、痛みを伴うものの次の諸症：関節のはれや痛み、神経痛、感冒		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	甘草附子湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(2) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラーゲンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られる

スポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(3) ビャクジュツ 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髄を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髄及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(4) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 7】 K●●

成分及び分量又は本質	日本薬局方	ビンロウジ	4.0g
	〃	コウボク	3.0g
	〃	ケイヒ	3.0g
	局外生規	キッピ	3.0g
	日本薬局方	ソヨウ	1.5g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	ダイオウ	0.5～1.0g
	〃	モッコウ	1.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	全 量		18～18.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以上で、全身倦怠感があり、とくに下肢の倦怠感が著しいものの次の諸証：疲労倦怠感、更年期障害、動悸、息切れ、むくみ、神経症、胃腸炎、関節のはれや痛み		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規 格 及 び 試 験 方 法	別記のとおり。		
備 考	九味檳榔湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ビンロウジ** 灰褐色の種皮が白色の胚乳中に入り込んで大理石のような模様を呈する。味は渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「ビンロウジ」の確認試験を準用する。

(2) **コウボク** 外面は灰白色～灰褐色を呈し、内面は淡褐色～褐色、切断面は淡赤褐

色を呈し、繊維性である。わずかに芳香があり、味は苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は厚く、ほぼ等径性の石細胞が環状に内接する。一次皮部は狭く、内しょう部には繊維群が点在し、二次皮部の放射組織間には師部繊維群が階段状に並ぶ。油細胞の多数は一次皮部に、少数は二次皮部に散在し、狭い放射組織内にも認められることがある。

必要に応じて、「コウボク」の確認試験を準用する。

(3) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぶん粒を含む。

(4) キッピ 外面は黄褐色～赤褐色を呈し、油室による多数のくぼんだ細点があり、内面は類白色～淡赤褐色を呈する。厚さ約 1mm で、質は軽くてもろい。芳香があり、味は苦い。

切片を鏡検するとき、油室は円く、径 410～730 μ m である。

必要に応じて、局外生規「キッピ」の確認試験を準用する。

(5) ソヨウ 縮んだ葉の細片で、両面とも帯褐紫色、あるいは上面は灰緑色～帯褐緑色で下面は帯褐紫色を呈する。茎を交えるものは、その横断面は方形である。葉をルーペ視するとき、両面にまばらに毛を認め、特に葉脈上に多く、裏面には細かい腺毛を認める。もみ砕くとき、特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

必要に応じて、「ソヨウ」の確認試験を準用する。

(6) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中

にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(7) ダイオウ 暗褐色～黄褐色～淡褐色を呈し、ルーペ視すると入り組んだ不規則な模様がある。質はおおむね粗で繊維性ではない。特異なおいがあり、味はわずかに渋くて苦い。かめば細かい砂をかむような感じがあり、だ液を黄色に染める。

必要に応じて、「ダイオウ」の確認試験を準用する。

(8) モッコウ 外側は黄褐色～灰褐色で、あらい縦じわがある。横断面は黄褐色～暗褐色で、ルーペ視するとき、環状暗色の形成層が認められ、木部組織と放射組織が放射状の模様を呈し、ところどころに大きな裂け目と褐色の油室が散在している。特異なおいがあり、味は苦い。

必要に応じて、「モッコウ」の確認試験を準用する。

(9) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 7—①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ビンロウジ	4.0g
	〃	コウボク	3.0g
	〃	ケイヒ	3.0g
	局外生規	キッピ	3.0g
	日本薬局方	ソヨウ	1.5g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	モッコウ	1.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	ゴシュユ	1.0g
	〃	ブクリョウ	3.0g
	全 量		21.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以上で、全身倦怠感があり、とくに下肢の倦怠感が著しいものの次の諸証：疲労倦怠感、更年期障害、動悸、息切れ、むくみ、神経症、胃腸炎、関節のはれや痛み		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	九味檳榔湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ビンロウジ** 灰褐色の種皮が白色の胚乳中に入り込んで大理石のような模様を呈する。味は渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「ビンロウジ」の確認試験を準用する。

(2) **コウボク** 外面は灰白色～灰褐色を呈し、内面は淡褐色～褐色、切断面は淡赤褐

色を呈し、繊維性である。わずかに芳香があり、味は苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は厚く、ほぼ等径性の石細胞が環状に内接する。一次皮部は狭く、内しょう部には繊維群が点在し、二次皮部の放射組織間には師部繊維群が階段状に並ぶ。油細胞の多数は一次皮部に、少数は二次皮部に散在し、狭い放射組織内にも認められることがある。

必要に応じて、「コウボク」の確認試験を準用する。

(3) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぶん粒を含む。

(4) キッピ 外面は黄褐色～赤褐色を呈し、油室による多数のくぼんだ細点があり、内面は類白色～淡赤褐色を呈する。厚さ約 1mm で、質は軽くてもろい。芳香があり、味は苦い。

切片を鏡検するとき、油室は円く、径 410～730 μ m である。

必要に応じて、局外生規「キッピ」の確認試験を準用する。

(5) ソヨウ 縮んだ葉の細片で、両面とも帯褐紫色、あるいは上面は灰緑色～帯褐緑色で下面は帯褐紫色を呈する。茎を交えるものは、その横断面は方形である。葉をルーペ視するとき、両面にまばらに毛を認め、特に葉脈上に多く、裏面には細かい腺毛を認める。もみ砕くとき、特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

必要に応じて、「ソヨウ」の確認試験を準用する。

(6) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中

にはでんぶん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(7) モッコウ 外側は黄褐色～灰褐色で、あらい縦じわがある。横断面は黄褐色～暗褐色で、ルーペ視するとき、環状暗色の形成層が認められ、木部組織と放射組織が放射状の模様を呈し、ところどころに大きな裂け目と褐色の油室が散在している。特異なおいがあり、味は苦い。

必要に応じて、「モッコウ」の確認試験を準用する。

(8) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(9) ゴシュユ 偏球形又は球形を呈し、外面は暗褐色～灰褐色、多くの油室がくぼんだ小点として認められ、その中心には花柱の残基があるが、しばしばこれは脱落している。果柄は長さ 2～5mm で、灰緑色の毛を密生している。果皮は、通例、開裂し、予房は 5 室に分かれ、各室中には倒卵球形又は球形の褐色～黒褐色又は帯青黒色のつやのある種子がある。特異なおいがあり、味は辛く、後に残留性の苦味がある。

必要に応じて、「ゴシュユ」の確認試験を準用する。

(10) ブクリョウ 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No. 8】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ケイヒ	3.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	カンゾウ	2.0g
	〃	タイソウ	3.0g
	〃	マオウ	2.0g
	〃	サイシン	2.0g
	〃	ブシ	0.3～1.0g
全 量			13.3～14.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以下で、さむけを訴えるものの次の諸症：感冒、気管支炎、関節のはれや痛み、水様性鼻汁を伴う鼻炎、神経痛、腰痛、冷え症		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	桂姜棗草黄辛附湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中に

はでんぷん粒を含む。

(2) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(3) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) **タイソウ** 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は扁平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(5) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(6) **サイシン** 根の外面は淡褐色で、径約 1mm、切断面は黄白色である。根茎は不整に湾曲し外面は暗褐色を呈する。特異なおいがあり、味は辛く舌をやや麻ひする。

(7) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700μm、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、

通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μm 、長径 60～150 μm の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($\text{C}_{34}\text{H}_{47}\text{O}_{11}\text{N}$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μL 及び 15 μL を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μL を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μL を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 9】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	ケイヒ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	カンゾウ	1.5g
	〃	マオウ	2.0 ～ 3.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	ビャクジュツ	4.0g
	〃	チモ	3.0g
	〃	ボウフウ	3.0g
	〃	ブシ	0.3 ～ 1.0g
全 量			20.8 ～ 22.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、皮膚が乾燥し、四肢あるいは諸関節のはれが慢性に経過して、痛むものの次の諸症：関節のはれや痛み、関節炎、神経痛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	桂枝芍薬知母湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥

厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(2) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) マオウ 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(5) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(6) ビャクジュツ 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(7) **チモ** 外面は黄褐色～褐色を呈し、質は軽くて折りやすい。横断面は淡黄褐色を呈し、これをルーペ視するとき、皮層は極めて狭く、広い中心柱には、多くの維管束が不規則に点在し、粘液細胞又はその集合による多孔性を示す。味はわずかに甘く、粘液性で、後に苦い。

必要に応じて、「チモ」の確認試験を準用する。

(8) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(9) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髓中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗

う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水（28）を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4：1：5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 9—①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ケイヒ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	カンゾウ	1.5g
	〃	マオウ	2.0～3.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	ソウジュツ	4.0g
	〃	チモ	3.0g
	〃	ボウフウ	3.0g
	〃	ブシ	0.3～1.0g
	全 量		20.8～22.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、皮膚が乾燥し、四肢あるいは諸関節のはれが慢性に経過して、痛むものの次の諸症：関節のはれや痛み、関節炎、神経痛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	桂枝芍薬知母湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なにおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥

厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(2) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(5) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(6) **ソウジュツ** 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(7) **チモ** 外面は黄褐色～褐色を呈し、質は軽くて折りやすい。横断面は淡黄褐色を呈し、これをルーペ視するとき、皮層は極めて狭く、広い中心柱には、多くの維管束が不規則に点在し、粘液細胞又はその集合による多孔性を示す。味はわずかに甘く、粘液性で、後に苦い。

必要に応じて、「チモ」の確認試験を準用する。

(8) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(9) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦とときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、

クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4：1：5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.10】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	キキョウ	3.0g
	局外生規	シオン	1.5g
	日本薬局方	カンゾウ	2.0g
	〃	バクモンドウ	9.0g
	〃	ニンジン	1.5g
	〃	バイモ	2.5g
	〃	キョウニン	4.5g
全 量			24.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品1包に水約500mLを加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を3回に分けて食間に服用する。上記は大人の1日量である。15才未満7才以上 大人の2/3，7才未満4才以上 大人の1/2，4才未満2才以上 大人の1/3，2才未満 大人の1/4以下を服用する。		
効能又は効果	のどが痛くて声が出ない感冒		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	外台四物湯加味		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **キキョウ** 外面は皮付きは灰褐色，皮去りは白色～淡褐色を呈し，繊維性でない。横切面をルーペ視するとき，皮部は木部よりやや薄く，ほとんど白色で，ところどころにすき間があり，形成層の付近はしばしば褐色を帯びる。木部は白色～淡褐色を呈し，その組織は皮部よりもやや密である。味は初めなく，後にえぐくて苦い。

必要に応じて，「キキョウ」の確認試験を準用する。

(2) **シオン** 外面は淡褐色～帯紫褐色を呈し，切断面は褐色～淡褐色である。根の径は1～2mmで，根には細かい縦じわがあり，質はやや柔軟である。特異なおいがあり，味はわずかに苦くてややえぐい。

必要に応じて、局外生規「シオン」の確認試験を準用する。

(3) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) バクモンドウ 外面は淡黄色～淡黄褐色で、大小の縦じわがある。折るとき皮層は柔軟であるがもろく、中心柱は強じんである。皮層の折面は淡黄褐色を呈し、やや半透明で粘着性がある。味はわずかに甘く、粘着性である。

(5) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(6) バイモ 偏球形を呈し、肥厚した 2 個のりん片葉からなり、径 2～3cm、高さ 1～2cm、しばしば分離したものがある。外面及び内面は白色～淡黄褐色、内面の基部はやや暗色を呈する。石灰を散布して乾燥したものは白粉を付けている。折面は白色を呈し、粉性である。特異な弱いおいがあり、味は苦い。

横切片を鏡検するとき、最外層は 1 層の表皮からなりその内側は柔組織で満たされ、多数の維管束が散在する。柔組織中にはでんぷん粒を含む。でんぷん粒は主に単粒で、径 5～50 μ m、層紋が明瞭で、長卵形～卵形又は三角状卵形、まれに 2～3 個からなる複粒もある。また、表皮細胞及び道管付近の柔細胞にはシュウ酸カルシウムの単晶を含む。

必要に応じて、「バイモ」の確認試験を準用する。

(7) キョウニン 種皮は褐色で、表面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があつて、粉をふいたようである。切断面は類白色である。味は苦く、油ようである。

表皮の表面を鏡検するとき、数個ずつ集合する石細胞はおおむね円形で、その細胞膜は均等に著しく厚くなり、径 60～90 μ m、側面視では鈍三角形で、細胞膜は先端部で著しく厚い。

必要に応じて、「キョウニン」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.11】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	サイコ	4.0g
	〃	カッコン	3.0g
	〃	マオウ	2.0g
	〃	ケイヒ	3.0g
	〃	オウゴン	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	ハンゲ	3.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	セッコウ	5.0g
		全 量	28.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1 包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以上で，激しい感冒様症状を示すものの次の諸症：発熱，悪寒，頭痛，四肢の痛み，口渇，不眠，鼻腔乾燥，食欲不振，はきけ，全身倦怠		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	柴葛解肌湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **サイコ** 外面は灰褐色～褐色で，深いしわがあるものがあり，横断面では，皮部は褐色，木部は淡褐色を呈する。特異なおいがあり，味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき，皮部にはしばしば接線方向に長い裂け目があり，皮部の厚さは

半径の 1/3～1/2 で、径 15～35 μ m の胞間性離生油道がやや多数散在し、木部には道管が放射状若しくはほぼ階段状に配列し、ところどころに繊維群があり、根頭部の髄には皮部と同様の油道がある。柔細胞中にはでんぷん粒を満たし、また油滴を認める。

必要に応じて、「サイコ」の確認試験を準用する。

(2) **カッコン** 淡灰黄色～灰白色を呈し、繊維性でやや粉性である。味はわずかに甘い。横切片を鏡検するとき、師部には結晶細胞列を伴った繊維束、木部には道管及び木部繊維が著しく、柔組織を満たすでんぷん粒は長径 2～18 μ m、多くは 8～12 μ m の数面からなる多面体の単粒、まれに 2～3 個からなる複粒で、中央にへそ又は欠裂を認め、層紋がある。

(3) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(4) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(5) **オウゴン** 外面は黄褐色～暗褐色を呈し、切断面は黄色～帯褐黄色を呈し、縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて、「オウゴン」の確認試験を準用する。

(6) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(7) **ハンゲ** 外面は白色～灰白黄色、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺には

根の跡がくぼんだ細点となっている。横断面は白色、粉性である。味は初めなく、やや粘性で、後に強いえぐ味を残す。

横切片を鏡検するとき、主としてでんぷん粒を充満した柔組織からなり、わずかにシュウ酸カルシウムの束晶を含んだ粘液細胞がその間に認められる。でんぷん粒は主として 2～3 個の複粒で、通例、径 10～15 μm 、単粒は通例径 3～7 μm である。束晶は長さ 25～150 μm である。

(8) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(9) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(10) セッコウ 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 設定しない

【No.12】 K●●

成分及び分 又は本質	日本薬局方	サイコ	5.0g
	〃	ハンゲ	5.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	オウゴン	3.0g
	局外生規	カロニン	3.0g
	日本薬局方	キキョウ	3.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	キジツ	1.5g
	全 量		22.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品1包に水約500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を3回に分けて食間に服用する。上記は大人の1日量である。15才未満7才以上 大人の2/3、7才未満4才以上 大人の1/2、4才未満2才以上 大人の1/3、2才未満 大人の1/4以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上のものの次の諸証：せき、たん		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	柴胡枳桔湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **サイコ** 外面は灰褐色～褐色で、深いしわがあるものがあり、横断面では、皮部は褐色、木部は淡褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部にはしばしば接線方向に長い裂け目があり、皮部の厚さは半径の 1/3～1/2 で、径 15～35 μ m の胞間性離生油道がやや多数散在し、木部には道管が放射状若しくはほぼ階段状に配列し、ところどころに繊維群があり、根頭部の髄には皮部と同様の油道がある。柔細胞中にはでんぷん粒を満たし、また油滴を認める。

必要に応じて、「サイコ」の確認試験を準用する。

(2) **ハンゲ** 外面は白色～灰白黄色、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺に

は根の跡がくぼんだ細点となっている。横断面は白色、粉性である。味は初めなく、やや粘液性で、後に強いえぐ味を残す。

横切片を鏡検するとき、主としてでんぷん粒を充満した柔組織からなり、わずかにシュウ酸カルシウムの束晶を含んだ粘液細胞がその間に認められる。でんぷん粒は主として 2～3 個の複粒で、通例、径 10～15 μm 、単粒は通例径 3～7 μm である。束晶は長さ 25～150 μm である。

(3) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮をつけたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(4) オウゴン 外面は黄褐色～暗褐色を呈し、切断面は黄色～帯褐黄色を呈し、縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて、「オウゴン」の確認試験を準用する。

(5) カロニン 種子で、次の (1)、(2) 又は (3) である。(1) は扁平な卵形～広卵形、ときにだ円形を呈し、多くは左右非相称である。長さ 9～18mm、幅 5～10mm、厚さ約 3mm、灰褐色～暗赤褐色あるいは淡褐色を呈する。細まった一端にはへそと発芽口があり、この部分はやや隆起し、切形又は鈍頭を呈する。周辺に沿って幅 1～3mm の縁どりがあるものと、これが明らかでないものがある。表面はなめらかであるが、ルーペ視すると、多数の小さなくぼみが見られる。(2) は扁平な長だ円形を呈し、長さ 12～15mm、幅 5～7mm、厚さ約 4mm、灰白色～灰褐色を呈する。へそ及び発芽口の部分は (1) に類似するが、周辺の縁どりはおおむね明らかでなく、表面はざらつき、小隆起が密集する。(3) は (1) に類似するが、大形で、長さ 18～27mm、幅 10～16mm、厚さ 3～6mm のもの、(1) にやや類似するがおおむね左右相称で、へそと発芽口は極めて接近し、その付近は淡黄褐色を呈するもの、及び (1) に極めて類似するものがある。種皮をはぐと通例表面灰緑色を呈する子葉が見られる。においがなく、味は苦く油ようである。

必要に応じて、局外生規「カロニン」の確認試験を準用する。

(6) キキョウ 外面は皮付きは灰褐色、皮去りは白色～淡褐色を呈し、繊維性でない。横切面をルーペ視するとき、皮部は木部よりやや薄く、ほとんど白色で、ところどころにすき間があり、形成層の付近はしばしば褐色を帯びる。木部は白色～淡褐色を呈し、その組織は皮部よりもやや密である。味は初めなく、後にえぐくて苦い。

必要に応じて、「キキョウ」の確認試験を準用する。

(7) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で

繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髓がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(8) キジツ 外面は濃緑褐色～褐色で、つやがなく、油室による多数のくぼんだ小点がある。切断面は淡灰褐色を呈し、内果皮を付ける部分は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は苦い。

必要に応じて、「キジツ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.13】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	カンゾウ	2.0～3.0g
	〃	カンキョウ	2.0g
	〃	ブシ	0.3～1.0g
	全 量		4.3～6.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3，7才未満 4才以上 大人の 1/2，4才未満 2才以上 大人の 1/3，2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱あるいは体力が消耗し，手足が冷えるものの次の諸症：感冒、急・慢性胃腸炎、下痢、はきけ		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	四逆湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり，切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では，皮部と木部の境界はほぼ明らかで，放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき，皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し，師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し，道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い，ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み，またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(2) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2~4cm、径 1~2cm である。外面は灰黄色~灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色~暗褐色で透明感があり角質である。横切面をルーペ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

(3) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15~30mm、径 12~16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20~60mm、幅 15~40mm、厚さ 200~700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色~暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色~暗褐色又は黄白色~淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形~楕円状四角形、短径 30~75 μ m、長径 60~150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形~円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液漏斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水

硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4： 1： 5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.14】 K●●

成分及び分量 又は 本 質	日本薬局方	サンシシ	1.5～3.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	オウバク	2.0g
	全 量		4.5～6.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する		
用法及び用量	本品 1包に水約 160mL を加えて，60mLぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 2回に分けて食間に温めて服用する。目の充血には洗眼。 上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3， 7才未満 4才以上 大人の 1/2， 4才未満 2才以上 大人の 1/3， 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度で，冷えはなく，ときにかゆみがあるものの次の諸症：湿疹・皮膚炎，かゆみ，目の充血		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	梔子柏皮湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **サンシシ** 果皮は薄く砕きやすく，その外面は赤褐色～黄褐色又は黒褐色を呈し，内面は黄褐色を呈し，平らでつやがある。果実の内部は 2 室に分かれ，黄赤色～暗赤色の果肉中に黒褐色又は黄赤色で長径約 5mm の扁平な種子の団塊を含む。質は軽い。特異なおいがあり，味は苦い。

必要に応じて，「サンシシ」の確認試験を準用する。

(2) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり，切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では，皮部と木部の境界はほぼ明らかで，放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき，皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し，師部

には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(3) オウバク 外面は灰黄褐色～灰褐色で、内面は黄色～暗黄褐色で、細かい縦線がある。横断面は鮮黄色でやや繊維性である。横切面をルーペ視するとき、皮部外層は黄色で薄く、石細胞が黄褐色の点状に分布する。皮部内層は厚く、一次放射組織は外方に向かうにしたがい幅が広がり、それらの一次放射組織の間に、多くの二次放射組織が集まってほぼ三角形の師部を形成し、この組織に褐色を呈する師部繊維束が層積して接線方向に並び、放射組織と交錯して格子状を呈する。味は極めて苦く、粘液性で、だ液を黄色に染める。

必要に応じて、「オウバク」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 10%以下。

【No.15】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	トウキ	3.0g
	〃	センキュウ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	チモ	3.0g
	〃	ジオウ	3.0g
	〃	オウバク	3.0g
	〃	オウゴン	3.0g
	〃	サイコ	3.0g
	〃	ビャクシ	3.0g
	〃	コウブシ	3.0g
全 量			30.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1 包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力虚弱なもの次の諸症：耳鳴り，聴力低下，めまい		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	滋腎通耳湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で，縦じわがあり，切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり，味はわずかに甘く，後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき，コルク層は 4～10 層からなり，その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり，明らかに皮部と木部とを区別する。木

部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 $19\mu\text{m}$ 以下、まれに 2~5 個の複粒があり、複粒の径は $25\mu\text{m}$ に達し、しばしばのり化している。

(2) センキュウ 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 $5\sim 25\mu\text{m}$ のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(3) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(4) チモ 外面は黄褐色～褐色を呈し、質は軽くて折りやすい。横断面は淡黄褐色を呈し、これをルーペ視するとき、皮層は極めて狭く、広い中心柱には、多くの維管束が不規則に点在し、粘液細胞又はその集合による多孔性を示す。味はわずかに甘く、粘液性で、後に苦い。

必要に応じて、「チモ」の確認試験を準用する。

(5) ジオウ 外面は黄褐色～黒褐色を呈し、深い縦みぞ及びくびれがある。質は柔らかく粘性である。横断面は黄褐色～黒褐色で、皮部は木部より色が濃く、ほとんど髄を認めない。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 7~15 層で、皮部はすべて柔細胞からなり、外皮部に褐色の分泌物を含む細胞が散在する。木部はほとんど柔細胞で満たされ、放射状に並ぶ道管は側孔のある網紋があり、弱い木化反応を呈する。

(6) オウバク 外面は灰黄褐色～灰褐色で、内面は黄色～暗黄褐色で、細かい縦線がある。横断面は鮮黄色でやや繊維性である。横切面をルーペ視するとき、皮部外層は黄色で薄く、石細胞が黄褐色の点状に分布する。皮部内層は厚く、一次放射組織は外方に向かうにしたがい幅が広がり、それらの一次放射組織の間に、多くの二次放射組織が集まってほぼ三角形の師部を形成し、この組織に褐色を呈する師部繊維束が層積して接線方向に並び、放射組織と交錯して格子状を呈する。味は極めて苦く、粘液性で、だ液を黄色に染める。

必要に応じて、「オウバク」の確認試験を準用する。

(7) **ビャクシ** 外面は灰褐色～暗褐色を呈し、縦じわがあり、横断面の周辺は灰白色で空げきが多く、中央部は暗褐色である。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

必要に応じて、「ビャクシ」の確認試験を準用する。

(8) **オウゴン** 外面は黄褐色～暗褐色を呈し、切断面は黄色～帯褐黄色を呈し、縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて、「オウゴン」の確認試験を準用する。

(9) **サイコ** 外面は灰褐色～褐色で、深いしわがあるものがあり、横断面では、皮部は褐色、木部は淡褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部にはしばしば接線方向に長い裂け目があり、皮部の厚さは半径の $1/3 \sim 1/2$ で、径 $15 \sim 35\mu\text{m}$ の胞間性離生油道がやや多数散在し、木部には道管が放射状若しくはほぼ階段状に配列し、ところどころに繊維群があり、根頭部の髄には皮部と同様の油道がある。柔細胞中にはでんぷん粒を満たし、また油滴を認める。

必要に応じて、「サイコ」の確認試験を準用する。

(8) **コウブシ** 紡錘形を呈し、長さ $1.5 \sim 2.5\text{cm}$ 、径 $0.5 \sim 1\text{cm}$ である。外面は灰褐色～灰黒褐色で、 $5 \sim 8$ 個の不整な輪節があり、その部分に毛状になった繊維束がある。質は堅く、横断面は赤褐色～淡黄色を呈し、ろうようのつやを帯び、皮層部の厚さは中心柱の径とほぼ等しいか又はわずかに薄い。これをルーペ視するとき、周辺には繊維束が褐色のはん点として輪状に並び、皮層部にはところどころに維管束が赤褐色のはん点として、また分泌細胞が黄褐色の微小なはん点として多数存在する。中心柱には多数の維管束が点又は線として散在する。わずかに特異なおい及び味がある。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.16】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	ブクリョウ	5.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	ビャクジュツ	3.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	ブシ	0.3～0.5g
		全 量	12.3～12.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、冷えがあつて、疲労倦怠感があり、ときに下痢、腹痛、めまいがあるものの次の諸症：下痢、急・慢性胃腸炎、胃腸虚弱、めまい、動悸、感冒、むくみ、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	真武湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(2) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、

横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なにおいがあり，味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき，皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり，放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髄を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髄及び放射組織中には皮部と同様な油室があり，柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて，「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(4) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか，又はその一部をはぎとってあり，表面は灰白色～淡灰褐色で，しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性，粉性で，淡帯黄褐色を呈し，皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき，その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なにおいがあり，味は極めて辛い。

(5) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で，長さ 15～30mm，径 12～16mm，又は縦ときに横に切断され，長さ 20～60mm，幅 15～40mm，厚さ 200～700 μ m，又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く，通例，しわはなく，切面は平らで，淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し，通常角質，半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき，外側から擬上皮，一次皮層，内皮，二次皮層，形成層，木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形，短径 30～75 μ m，長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり，木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋，階紋，網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて，「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし，その重量を精密に量り，これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後，1 時間振とうし，ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後，前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い，全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後，分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し，水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ，これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロ

ホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4： 1： 5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No. 16—①】 K●●—①

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	ブクリョウ	5.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	ソウジュツ	3.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	ブシ	0.3～0.5g
	全 量		12.3～12.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、冷えがあつて、疲労倦怠感があり、ときに下痢、腹痛、めまいがあるものの次の諸症：下痢、急・慢性胃腸炎、胃腸虚弱、めまい、動悸、感冒、むくみ、湿疹・皮膚炎、皮膚のかゆみ		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	真武湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(2) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、本部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) **ソウジュツ** 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌

物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なにおいがあり，味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき，皮部の柔組織中には，通例，繊維束を欠き，放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し，髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(4) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか，又はその一部をはぎとってあり，表面は灰白色～淡灰褐色で，しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性，粉性で，淡帯黄褐色を呈し，皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき，その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なにおいがあり，味は極めて辛い。

(5) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で，長さ 15～30mm，径 12～16mm，又は縦ときに横に切断され，長さ 20～60mm，幅 15～40mm，厚さ 200～700 μ m，又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く，通例，しわはなく，切面は平らで，淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し，通常角質，半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき，外側から擬上皮，一次皮層，内皮，二次皮層，形成層，木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形，短径 30～75 μ m，長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり，木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋，階紋，網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて，「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし，その重量を精密に量り，これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後，1 時間振とうし，ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後，前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い，全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後，分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し，水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ，これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後，クロロホルムを合わせ，これに水 10mL を加え洗った後，クロロホルム層を分取し，無水

硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4： 1： 5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.17】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ニンジン	3.0g
	〃	ビャクジュツ	3.5g
	〃	ブクリョウ	3.5g
	〃	トウキ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	ショウマ	1.0g
	〃	ゴミシ	1.0g
	局外生規	ゲンジン	1.0g
	日本薬局方	バクモンドウ	3.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
全 量			23.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1 包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で，胃腸が弱いものの次の諸症：口内炎，口腔や舌の荒れ・痛み，口の渇き・乾燥		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	清熱補気湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **ニンジン** 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し，縦じわがあり，横断面は淡黄褐色を呈し，形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり，味は初めわずかに甘く，後にやや苦い。

必要に応じて，「ニンジン」の確認試験を準用する。

(2) **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(3) **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(4) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は4～10層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径19 μm 以下、まれに2～5個の複粒があり、複粒の径は25 μm に達し、しばしばのり化している。

(5) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(6) **ショウマ** 外面は暗褐色を呈し、切断面では木部は淡褐色～灰褐色繊維性で、網目状を呈する。質は軽い。味は苦くてわずかに渋い。

(7) **ゴミシ** 暗赤色～黒褐色を呈し、表面にはしわがあり、またしばしば白い粉を付ける。果肉を除くとじん臓型の種子1～2個を認め、その外種皮は黄褐色～暗赤褐色を呈し、つやがあり、堅くてもろい。外種皮はたやすくはがれるが、内種皮は胚乳に密着し、背面に明らかな縫線を認める。酸味があり、後に渋くて苦い。

(8) **ゲンジン** 外面は黄褐色～褐色を呈し、切断面は黒褐色を呈する。特異なおい

があり，味はやや甘く，後わずかに苦い。

必要に応じて，局外生規「ゲンジン」の確認試験を準用する。

（９） バクモンドウ 紡錘形を呈し，長さ 10～25mm，径 3～5mm，一端はややとがり，他端はやや丸みをもち，外面は淡黄色～淡黄褐色で，大小の縦じわがある。皮層は柔軟性でもろく，中心柱は強じんで折りにくい。皮層の折面は淡黄褐色を呈し，やや半透明で粘着性がある。味はわずかに甘く，粘着性である。

（１０） カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり，切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では，皮部と木部の境界はほぼ明らかで，放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき，皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し，師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し，道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い，ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み，またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.18】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	トウキ	3.0g
	〃	センキュウ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	ジオウ	3.0g
	局 外 生 規	ゲンジン	1.5g
	日本薬局方	チモ	1.5g
	〃	ゴミシ	1.5g
	〃	オウバク	1.5g
	〃	バクモンドウ	3.0g
	〃	サイコ	1.5g
	〃	ボ タ ン ピ	1.5g
全 量			24.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3，7才未満 4才以上 大人の 1/2，4才未満 2才以上 大人の 1/3，2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で，胃腸障害はなく，貧血気味で皮膚が乾燥しているものの次の諸症：口内炎，口腔や舌の荒れ・痛み，口の渇き・乾燥		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	清熱補血湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で，縦じわがあり，切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なにおいがあり，味はわずかに甘く，後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき，コルク層は 4～10 層からなり，その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。

形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 $19\mu\text{m}$ 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は $25\mu\text{m}$ に達し、しばしばのり化している。

(2) センキュウ 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～ $25\mu\text{m}$ のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(3) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(4) ジオウ 外面は黄褐色～黒褐色を呈し、深い縦みぞ及びくびれがある。質は柔らかく粘性である。横断面は黄褐色～黒褐色で、皮部は木部より色が濃く、ほとんど髄を認めない。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 7～15 層で、皮部はすべて柔細胞からなり、外皮部に褐色の分泌物を含む細胞が散在する。木部はほとんど柔細胞で満たされ、放射状に並ぶ道管は側孔のある網紋があり、弱い木化反応を呈する。

(5) ゲンジン 外面は黄褐色～褐色を呈し、切断面は黒褐色を呈する。特異なおいがあり、味はやや甘く、後わずかに苦い。

必要に応じて、局外生規「ゲンジン」の確認試験を準用する。

(6) チモ 外面は黄褐色～褐色を呈し、質は軽くて折りやすい。横断面は淡黄褐色を呈し、これをルーペ視するとき、皮層は極めて狭く、広い中心柱には、多くの維管束が不規則に点在し、粘液細胞又はその集合による多孔性を示す。味はわずかに甘く、粘液性で、後に苦い。

必要に応じて、「チモ」の確認試験を準用する。

(7) ゴミシ 暗赤色～黒褐色を呈し、表面にはしわがあり、またしばしば白い粉を付ける。果肉を除くとじん臓型の種子 1～2 個を認め、その外種皮は黄褐色～暗赤褐色を呈し、つやがあり、堅くてもろい。外種皮はたやすくはがれるが、内種皮は胚乳に密着し、背面に明らかな縫線を認める。酸味があり、後に渋くて苦い。

(8) オウバク 外面は灰黄褐色～灰褐色で、内面は黄色～暗黄褐色で、細かい縦線がある。横断面は鮮黄色でやや繊維性である。横切面をルーペ視するとき、皮部外層は黄色で薄く、石細胞が黄褐色の点状に分布する。皮部内層は厚く、一次放射組織は外方に向かうにしたがい幅が広がり、それらの一次放射組織の間に、多くの二次放射組織が集まってほぼ三角形の師部を形成し、この組織に褐色を呈する師部繊維束が層積して接線方向に並び、放射組織と交錯して格子状を呈する。味は極めて苦く、粘液性で、だ液を黄色に染める。

必要に応じて、「オウバク」の確認試験を準用する。

(9) バクモンドウ 紡錘形を呈し、長さ 10～25mm、径 3～5mm、一端はややとがり、他端はやや丸みを持ち、外面は淡黄色～淡黄褐色で、大小の縦じわがある。皮層は柔軟性でもろく、中心柱は強じんできりにくい。皮層の折面は淡黄褐色を呈し、やや半透明で粘着性がある。味はわずかに甘く、粘着性である。

(10) サイコ 外面は灰褐色～褐色で、深いしわがあるものがあり、横断面では、皮部は褐色、木部は淡褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部にはしばしば接線方向に長い裂け目があり、皮部の厚さは半径の $1/3 \sim 1/2$ で、径 $15 \sim 35\mu\text{m}$ の胞間性離生油道がやや多数散在し、木部には道管が放射状若しくはほぼ階段状に配列し、ところどころに繊維群があり、根頭部の髄には皮部と同様の油道がある。柔細胞中にはでんぷん粒を満たし、また油滴を認める。

必要に応じて、「サイコ」の確認試験を準用する。

(11) ボタンピ 外面は暗褐色～帯紫褐色、内面は淡灰褐色～暗紫色を呈する。内面及び切断面にはしばしば白色の結晶を付着する。特異なおいがあり、味はわずかに辛くて苦い。

必要に応じて、「ボタンピ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.19】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	オウギ	2.0g
	〃	トウキ	3.0g
	〃	ニンジン	2.5g
	〃	センキュウ	2.0g
	〃	ボウフウ	2.0g
	〃	キキョウ	2.0g
	〃	ビャクシ	1.0g
	〃	コウボク	2.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	ケイヒ	2.0g
		全 量	19.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で，患部が可能するものの次の諸症：化膿性皮膚疾患の初期，痔，軽いところずれ		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	千金内托散料		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **オウギ** 外面は淡灰黄色～淡褐黄色で，不規則なあらい縦じわがあり，折面は繊維性である。横断面をルーペ視するとき，最外層には周皮があり，皮部は淡黄白色，木部は淡黄色，形成層付近はやや褐色を帯びる。木部から皮部にわたって白色の放射組織が認められる。太いものではしばしば多数の放射状の裂け目となっている。わずかに特異なおいがあり，味は甘い。

(2) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μm 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μm に達し、しばしばのり化している。

(3) **ニンジン** 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(4) **センキュウ** 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～25 μm のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(5) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(6) **キキョウ** 外面は皮付きは灰褐色、皮去りは白色～淡褐色を呈し、繊維性でない。横切面をルーペ視するとき、皮部は木部よりやや薄く、ほとんど白色で、ところどころにすき間があり、形成層の付近はしばしば褐色を帯びる。木部は白色～淡褐色を呈し、その組織は皮部よりもやや密である。味は初めなく、後にえぐくて苦い。

必要に応じて、「キキョウ」の確認試験を準用する。

(7) **ビャクシ** 外面は灰褐色～暗褐色を呈し、縦じわがあり、横断面の周辺は灰白色で空げきが多く、中央部は暗褐色である。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

必要に応じて、「ビャクシ」の確認試験を準用する。

(8) **コウボク** 外面は灰白色～灰褐色を呈し、内面は淡褐色～褐色、切断面は淡赤褐色を呈し、繊維性である。わずかに芳香があり、味は苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は厚く、ほぼ等径性の石細胞が環状に内接する。一次皮部は狭く、内しょう部には繊維群が点在し、二次皮部の放射組織間には師部繊維群が階

段状に並ぶ。油細胞の多数は一次皮部に、少数は二次皮部に散在し、狭い放射組織内にも認められることがある。

必要に応じて、「コウボク」の確認試験を準用する。

(9) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(10) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No. 19—①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	オウギ	2.0g
	〃	トウキ	3.0g
	〃	ニンジン	2.5g
	〃	センキュウ	2.0g
	〃	ボウフウ	2.0g
	〃	キキョウ	2.0g
	〃	ビャクシ	1.0g
	〃	コウボク	2.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	ケイヒ	2.0g
	局 外 生 規	キンギンカ	2.0g
全 量			21.5 g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1 包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力虚弱で，患部が可能するものの次の諸症：化膿性皮膚疾患の初期，痔，軽いとこずれ		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	千金内托散料		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **オウギ** 外面は淡灰黄色～淡褐黄色で，不規則なあらい縦じわがあり，折面は繊維性である。横断面をルーペ視するとき，最外層には周皮があり，皮部は淡黄白色，木部は淡黄色，形成層付近はやや褐色を帯びる。木部から皮部にわたって白色の放射組織が認められる。太いものではしばしば多数の放射状の裂け目となっている。わずかに特異なおいがあり，味は甘い。

(2) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μ m 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μ m に達し、しばしばのり化している。

(3) **ニンジン** 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(4) **センキュウ** 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～25 μ m のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(5) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(6) **キキョウ** 外面は皮付きは灰褐色、皮去りは白色～淡褐色を呈し、繊維性でない。横切面をルーペ視するとき、皮部は木部よりやや薄く、ほとんど白色で、ところどころにすき間があり、形成層の付近はしばしば褐色を帯びる。木部は白色～淡褐色を呈し、その組織は皮部よりもやや密である。味は初めなく、後にえぐくて苦い。

必要に応じて、「キキョウ」の確認試験を準用する。

(7) **ビャクシ** 外面は灰褐色～暗褐色を呈し、縦じわがあり、横断面の周辺は灰白色で空げきが多く、中央部は暗褐色である。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

必要に応じて、「ビャクシ」の確認試験を準用する。

(8) **コウボク** 外面は灰白色～灰褐色を呈し、内面は淡褐色～褐色、切断面は淡赤褐色を呈し、繊維性である。わずかに芳香があり、味は苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は厚く、ほぼ等径性の石細胞が環状に内接する。一次皮部は狭く、内しょう部には繊維群が点在し、二次皮部の放射組織間には師部繊維群が階

段状に並ぶ。油細胞の多数は一次皮部に、少数は二次皮部に散在し、狭い放射組織内にも認められることがある。

必要に応じて、「コウボク」の確認試験を準用する。

(9) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(10) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(11) キンギンカ やや湾曲したこん棒状のつぼみで、長さ 1.5～3.0cm、外面は淡黄色～黄褐色を呈し、ルーペ視すると、淡褐色の毛を密生している。花は唇形で、5 本の雄しべがある。特異なおいがあり、味は苦くてわずかに甘い。

必要に応じて、局外生規「キンギンカ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.20】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	マオウ	3.0g
	〃	ケイヒ	3.0g
	〃	トウキ	3.0g
	〃	ニンジン	3.0g
	〃	セッコウ	6.0g
	〃	カンキョウ	2.0g
	〃	カンゾウ	2.0g
	〃	センキュウ	2.0g
	〃	キョウニン	4.0g
	全 量		28.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 400mL を加えて，160 mLぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 4回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3，7才未満 4才以上 大人の 1/2，4才未満 2才以上 大人の 1/3，2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上のものの次の諸証：しびれ，筋力低下，高血圧に伴う症状（めまい，耳鳴り，肩こり，頭痛，頭重，頭部圧迫感），気管支炎，気管支ぜんそく，神経痛，関節のはれや痛み，頭痛，むくみ		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	続命湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

（１） **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し，長さ 3～10mm，径 1～2mm，淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり，節部には，長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し，その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき，円形～だ円形で，周囲部は灰緑色～黄緑

色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(2) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(3) トウキ 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μm 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μm に達し、しばしばのり化している。

(4) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(5) セッコウ 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(6) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2～4cm、径 1～2cm である。外面は灰黄色～灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色～暗褐色で透明感があり角質である。横切面をルーペ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

(7) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(8) センキュウ 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～25 μm のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(9) キョウニン 種皮は褐色で、表面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があつて、粉をふいたようである。切断面は類白色である。味は苦く、油ようである。

表皮の表面を鏡検するとき、数個ずつ集合する石細胞はおおむね円形で、その細胞膜は均等に著しく厚くなり、径 60～90 μm 、側面視では鈍三角形で、細胞膜は先端部で著しく厚い。

必要に応じて、「キョウニン」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 設定しない。

【No.21】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ダイオウ	1.0g
	〃	ブシ	0.2～1.0g
	〃	サイシン	2.0g
	全 量		3.2～4.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3，7才未満 4才以上 大人の 1/2，4才未満 2才以上 大人の 1/3，2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以下で、冷えて、ときに便秘するものの次の諸症：腹痛、神経痛、便秘		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	大黃附子湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **ダイオウ** 暗褐色～黄褐色～淡褐色を呈し，ルーペ視すると入り組んだ不規則な模様がある。質はおおむね粗で繊維性ではない。特異なおいがあり，味はわずかに渋くて苦い。かめば細かい砂をかむような感じがあり，だ液を黄色に染める。

必要に応じて，「ダイオウ」の確認試験を準用する。

(2) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で，長さ 15～30mm，径 12～16mm，又は縦ときに横に切断され，長さ 20～60mm，幅 15～40mm，厚さ 200～700μm，又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く，通例，しわはなく，切面は平らで，淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し，通常角質，半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき，外側から擬上皮，一次皮層，内皮，二次皮層，形成

層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μm 、長径 60～150 μm の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($\text{C}_{34}\text{H}_{47}\text{O}_{11}\text{N}$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μL 及び 15 μL を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μL を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μL を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(3) サイシン 根の外表面は淡褐色で、径約 1mm、切断面は黄白色である。根茎は不整に湾曲し外表面は暗褐色を呈する。特異なおいがあり、味は辛く舌をやや麻ひする。

乾燥減量 15%以下。

灰分 7%以下。

【No.22】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	ジオウ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	カンゾウ	1.2～1.5g
	〃	ボウフウ	3.0g
	〃	ビャクジュツ	3.0g
	〃	ブシ	0.5g
	〃	トチュウ	3.0g
	〃	キョウカツ	1.5g
	〃	センキュウ	2.0g
	〃	トウキ	3.0g
	〃	ゴシツ	1.5g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	オウギ	3.0g
	〃	ニンジン	1.5g
	〃	タイソウ	1.5g
全 量			31.7～32.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱あるいは体力が消耗し衰え、貧血気味なものの次の諸症：慢性関節炎、関節のはれや痛み、神経痛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	大防風湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ジオウ** 外面は黄褐色～黒褐色を呈し、深い縦みぞ及びくびれがある。質は柔らかく粘性である。横断面は黄褐色～黒褐色で、皮部は木部より色が濃く、ほとんど髓を認めない。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 7～15 層で、皮部はすべて柔細胞からなり、外皮部に褐色の分泌物を含む細胞が散在する。木部はほとんど柔細胞で満たされ、放射状に並ぶ道管は側孔のある網紋があり、弱い木化反応を呈する。

(2) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髓がある。柔細胞中にはでんぶん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮取りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(5) **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(6) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに

横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通常、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポッ

トより濃くない。

(7) **トチュウ** 厚さ2～6mmの粗皮を除いた半管状又は板状の皮片である。外面は淡灰褐色～灰褐色で粗雑であるが、ときにコルク層が剥離され赤褐色を呈することもある。内面は暗褐色～褐色を呈し、平滑で細かい縦線があり、折ると白絹ようのグッタペルカ（熱可塑性のゴムよう物質）の糸が出る。わずかに特異なおいがあり、味はわずかに甘い。

横切片を鏡検するとき、柔組織内にはグッタペルカを含む柔細胞があり、師部には石細胞層及び繊維層を認め、放射組織は2～3細胞列からなり、シュウ酸カルシウムの結晶を含まない。

必要に応じて、「トチュウ」の確認試験を準用する。

(8) **キョウカツ** やや湾曲した円柱形～円錐形を呈し、長さ3～10cm、径5～20mm、ときに根茎は分枝する。外面は黄褐色～暗褐色である。根茎はその頂端にやや円形にくぼんだ茎の跡があり、ときには短い茎の残基を付け、外面には隆起した節があり、節間は、通例、短い。節にはいぼ状突起となった根の跡がある。根の外面には粗い縦じわ及びいぼ状突起となった側根の跡がある。質は軽くややもろくて折りやすい。横切面には多くの放射状の裂け目があり、皮部は黄褐色～褐色、木部は淡黄色～淡灰黄色、髄は灰白色～淡褐色を呈し、ルーペ視するとき、皮部及び髄には油道による褐色の細点を認める。特異なおいがあり、味は初めわずかに酸味があり、後にやや辛く、わずかに麻痺性である。

横切片を鏡検するとき、最外層は数層～十数層のコルク層からなり、その内側に数層の厚角組織がある。皮層には多数の油道があり、大きいものでは径が 300 μ m に達する。また皮層には放射状に大きなすき間がある。髄にも油道があり、大きいものでは径が 500 μ m に達する。柔組織中には単粒及び 2～3 個の複粒のでんぷん粒を含む。

必要に応じて、「キョウカツ」の確認試験を準用する。

(9) **センキュウ** 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～25 μ m のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(10) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。

形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μ m 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μ m に達し、しばしばのり化している。

(11) ゴシツ 表面は灰黄色～黄褐色で、多数の縦じわがある。切断面は灰白色～淡褐色を呈し、黄白色の木部を認める。味はわずかに甘く、粘液性である。

横切片を鏡検するとき、皮部はやや明らかな形成層によって木部と区別できる。木部の中心には小さい原生木部があり、これを囲んで同心円状の環状維管束が外方に配列し、柔細胞の中にはシュウ酸カルシウムの砂晶を含み、でんぷん粒は認めない。

必要に応じて、「ゴシツ」の確認試験を準用する。

(12) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(13) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は扁平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(13) オウギ 外面は淡灰黄色～淡褐黄色で、不規則なあらい縦じわがあり、折面は繊維性である。横断面をルーペ視するとき、最外層には周皮があり、皮部は淡黄白色、木部は淡黄色、形成層付近はやや褐色を帯びる。木部から皮部にわたって白色の放射組織が認められる。太いものではしばしば多数の放射状の裂け目となっている。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(14) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(15) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は扁平である。わずかに特異なおい

があり，味は甘い。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 22—①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ジオウ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	カンゾウ	1.2～1.5g
	〃	ボウフウ	3.0g
	〃	ソウジュツ	3.0g
	〃	ブシ	0.5g
	〃	トチュウ	3.0g
	〃	キョウカツ	1.5g
	〃	センキュウ	2.0g
	〃	トウキ	3.0g
	〃	ゴシツ	1.5g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	オウギ	3.0g
	〃	ニンジン	1.5g
	〃	タイソウ	1.5g
全 量			31.7～32.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱あるいは体力が消耗し衰え、貧血気味なものの次の諸症：慢性関節炎、関節のはれや痛み、神経痛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	大防風湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ジオウ** 外面は黄褐色～黒褐色を呈し、深い縦みぞ及びくびれがある。質は柔らかく粘性である。横断面は黄褐色～黒褐色で、皮部は木部より色が濃く、ほとんど髓を認めない。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 7～15 層で、皮部はすべて柔細胞からなり、外皮部に褐色の分泌物を含む細胞が散在する。木部はほとんど柔細胞で満たされ、放射状に並ぶ道管は側孔のある網紋があり、弱い木化反応を呈する。

(2) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髓がある。柔細胞中にはでんぶん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮取りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(5) **ソウジュツ** 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髓及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(6) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700μm、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通

例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μm 、長径 60～150 μm の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($\text{C}_{34}\text{H}_{47}\text{O}_{11}\text{N}$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μL 及び 15 μL を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μL を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μL を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(7) **トチュウ** 厚さ2～6mmの粗皮を除いた半管状又は板状の皮片である。外面は淡

灰褐色 ～灰褐色で粗雑であるが、ときにコルク層が剥離され赤褐色を呈することもある。内面は暗褐色 ～褐色を呈し、平滑で細かい縦線があり、折ると白絹ようのグッタペルカ（熱可塑性のゴムよう 物質）の糸が出る。わずかに特異なおいがあり、味はわずかに甘い。

横切片を鏡検するとき、柔組織内にはグッタペルカを含む柔細胞があり、師部には石細胞層及び繊維層を認め、放射組織は2～3細胞列からなり、シュウ酸カルシウムの結晶を含まない。

必要に応じて、「トチュウ」の確認試験を準用する。

（８） キョウカツ やや湾曲した円柱形～円錐形を呈し、長さ3～10cm、径5～20mm、ときに根茎は分枝する。外面は黄褐色～暗褐色である。根茎はその頂端にやや円形にくぼんだ茎の跡があり、ときには短い茎の残基を付け、外面には隆起した節があり、節間は、通例、短い。節にはいぼ状突起となった根の跡がある。根の外面には粗い縦じわ及びいぼ状突起となった側根の跡がある。質は軽くややもろくて折りやすい。横切面には多くの放射状の裂け目があり、皮部は黄褐色～褐色、木部は淡黄色～淡灰黄色、髄は灰白色～淡褐色を呈し、ルーペ視するとき、皮部及び髄には油道による褐色の細点を認める。特異なおいがあり、味は初めわずかに酸味があり、後にやや辛く、わずかに麻痺性である。

横切片を鏡検するとき、最外層は数層～十数層のコルク層からなり、その内側に数層の厚角組織がある。皮層には多数の油道があり、大きいものでは径が 300 μ m に達する。また皮層には放射状に大きなすき間がある。髄にも油道があり、大きいものでは径が 500 μ m に達する。柔組織中には単粒及び2～3個の複粒のでんぷん粒を含む。

必要に応じて、「キョウカツ」の確認試験を準用する。

（９） センキュウ 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径5～25 μ m のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

（１０） トウキ 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は4～10層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個

集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μm 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μm に達し、しばしばのり化している。

(11) ゴシツ 表面は灰黄色～黄褐色で、多数の縦じわがある。切断面は灰白色～淡褐色を呈し、黄白色の木部を認める。味はわずかに甘く、粘液性である。

横切片を鏡検するとき、皮部はやや明らかな形成層によって木部と区別できる。木部の中心には小さい原生木部があり、これを囲んで同心円状の環状維管束が外方に配列し、柔細胞の中にはシュウ酸カルシウムの砂晶を含み、でんぷん粒は認めない。

必要に応じて、「ゴシツ」の確認試験を準用する。

(12) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(13) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(13) オウギ 外面は淡灰黄色～淡褐黄色で、不規則なあらい縦じわがあり、折面は繊維性である。横断面をルーペ視するとき、最外層には周皮があり、皮部は淡黄白色、木部は淡黄色、形成層付近はやや褐色を帯びる。木部から皮部にわたって白色の放射組織が認められる。太いものではしばしば多数の放射状の裂け目となっている。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(14) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(15) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 22—②】 K●●—②

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ジオウ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	カンゾウ	1.2～1.5g
	〃	ボウフウ	3.0g
	〃	ビャクジュツ	3.0g
	〃	ブシ	0.5g
	〃	トチュウ	3.0g
	〃	キョウカツ	1.5g
	〃	センキュウ	2.0g
	〃	トウキ	3.0g
	〃	ゴシツ	1.5g
	〃	カンキョウ	1.0g
	〃	オウギ	3.0g
	〃	ニンジン	1.5g
	〃	タイソウ	1.5g
全 量			31.7～32.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱あるいは体力が消耗し衰え、貧血気味なものの次の諸症：慢性関節炎、関節のはれや痛み、神経痛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	大防風湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ジオウ** 外面は黄褐色～黒褐色を呈し、深い縦みぞ及びくびれがある。質は柔らかく粘性である。横断面は黄褐色～黒褐色で、皮部は木部より色が濃く、ほとんど髓を認めない。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 7～15 層で、皮部はすべて柔細胞からなり、外皮部に褐色の分泌物を含む細胞が散在する。木部はほとんど柔細胞で満たされ、放射状に並ぶ道管は側孔のある網紋があり、弱い木化反応を呈する。

(2) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髓がある。柔細胞中にはでんぶん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮取りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(5) **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(6) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに

横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通常、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポッ

トより濃くない。

(7) **トチュウ** 厚さ2～6mmの粗皮を除いた半管状又は板状の皮片である。外面は淡灰褐色～灰褐色で粗雑であるが、ときにコルク層が剥離され赤褐色を呈することもある。内面は暗褐色～褐色を呈し、平滑で細かい縦線があり、折ると白絹ようのグッタペルカ（熱可塑性のゴムよう物質）の糸が出る。わずかに特異なおいがあり、味はわずかに甘い。

横切片を鏡検するとき、柔組織内にはグッタペルカを含む柔細胞があり、師部には石細胞層及び繊維層を認め、放射組織は2～3細胞列からなり、シュウ酸カルシウムの結晶を含まない。

必要に応じて、「トチュウ」の確認試験を準用する。

(8) **キョウカツ** やや湾曲した円柱形～円錐形を呈し、長さ3～10cm、径5～20mm、ときに根茎は分枝する。外面は黄褐色～暗褐色である。根茎はその頂端にやや円形にくぼんだ茎の跡があり、ときには短い茎の残基を付け、外面には隆起した節があり、節間は、通例、短い。節にはいぼ状突起となった根の跡がある。根の外面には粗い縦じわ及びいぼ状突起となった側根の跡がある。質は軽くややもろくて折りやすい。横切面には多くの放射状の裂け目があり、皮部は黄褐色～褐色、木部は淡黄色～淡灰黄色、髄は灰白色～淡褐色を呈し、ルーペ視するとき、皮部及び髄には油道による褐色の細点を認める。特異なおいがあり、味は初めわずかに酸味があり、後にやや辛く、わずかに麻痺性である。

横切片を鏡検するとき、最外層は数層～十数層のコルク層からなり、その内側に数層の厚角組織がある。皮層には多数の油道があり、大きいものでは径が 300 μ m に達する。また皮層には放射状に大きなすき間がある。髄にも油道があり、大きいものでは径が 500 μ m に達する。柔組織中には単粒及び 2～3 個の複粒のでんぷん粒を含む。

必要に応じて、「キョウカツ」の確認試験を準用する。

(9) **センキュウ** 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～25 μ m のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(10) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。

形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μ m 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μ m に達し、しばしばのり化している。

(11) ゴシツ 表面は灰黄色～黄褐色で、多数の縦じわがある。切断面は灰白色～淡褐色を呈し、黄白色の木部を認める。味はわずかに甘く、粘液性である。

横切片を鏡検するとき、皮部はやや明らかな形成層によって木部と区別できる。木部の中心には小さい原生木部があり、これを囲んで同心円状の環状維管束が外方に配列し、柔細胞の中にはシュウ酸カルシウムの砂晶を含み、でんぷん粒は認めない。

必要に応じて、「ゴシツ」の確認試験を準用する。

(12) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2～4cm、径 1～2cm である。外面は灰黄色～灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色～暗褐色で透明感があり角質である。横切面をルーペ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

(13) タイソウ 外面は赤褐色であらいいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(13) オウギ 外面は淡灰黄色～淡褐黄色で、不規則なあらいいしわがあり、折面は繊維性である。横断面をルーペ視するとき、最外層には周皮があり、皮部は淡黄白色、木部は淡黄色、形成層付近はやや褐色を帯びる。木部から皮部にわたって白色の放射組織が認められる。太いものではしばしば多数の放射状の裂け目となっている。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(14) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐

色を呈し，形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり，味は初めわずかに甘く，後にやや苦い。

必要に応じて，「ニンジン」の確認試験を準用する。

（１５）タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか，又は暗灰赤色で細かいしわがあり，いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で，中果皮は暗灰褐色を呈し，海綿ようで柔らかく粘着性があり，内果皮は極めて堅く，種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり，味は甘い。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 22—③】 K●●—③

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ジオウ	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	カンゾウ	1.2～1.5g
	〃	ボウフウ	3.0g
	〃	ソウジュツ	3.0g
	〃	ブシ	0.5g
	〃	トチュウ	3.0g
	〃	キョウカツ	1.5g
	〃	センキュウ	2.0g
	〃	トウキ	3.0g
	〃	ゴシツ	1.5g
	〃	カンキョウ	1.0g
	〃	オウギ	3.0g
	〃	ニンジン	1.5g
	〃	タイソウ	1.5g
全 量			31.7～32.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3，7才未満 4才以上 大人の 1/2，4才未満 2才以上 大人の 1/3，2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱あるいは体力が消耗し衰え、貧血気味なものの次の諸症：慢性関節炎、関節のはれや痛み、神経痛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	大防風湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **ジオウ** 外面は黄褐色～黒褐色を呈し、深い縦みぞ及びくびれがある。質は柔らかく粘性である。横断面は黄褐色～黒褐色で、皮部は木部より色が濃く、ほとんど髄を認めない。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 7～15 層で、皮部はすべて柔細胞からなり、外皮部に褐色の分泌物を含む細胞が散在する。木部はほとんど柔細胞で満たされ、放射状に並ぶ道管は側孔のある網紋があり、弱い木化反応を呈する。

(2) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮取りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(5) **ソウジュツ** 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(6) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700μm、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通

例，しわはなく，切面は平らで，淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し，通常角質，半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき，外側から擬上皮，一次皮層，内皮，二次皮層，形成層，木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形，短径 30～75 μm ，長径 60～150 μm の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり，木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋，階紋，網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて，「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($\text{C}_{34}\text{H}_{47}\text{O}_{11}\text{N}$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし，その重量を精密に量り，これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後，1 時間振とうし，ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後，前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い，全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後，分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し，水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ，これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後，クロロホルムを合わせ，これに水 10mL を加え洗った後，クロロホルム層を分取し，無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し，減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り，クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り，10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき，薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL，標準溶液 10 μL 及び 15 μL を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として，約 10cm 展開しこれを風乾した後，噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき，試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μL を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても，標準溶液の 15 μL を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(7) **トチュウ** 厚さ2～6mmの粗皮を除いた半管状又は板状の皮片である。外面は淡

灰褐色 ～灰褐色で粗雑であるが、ときにコルク層が剥離され赤褐色を呈することもある。内面は暗褐色 ～褐色を呈し、平滑で細かい縦線があり、折ると白絹ようのグッタペルカ（熱可塑性のゴムよう 物質）の糸が出る。わずかに特異なおいがあり、味はわずかに甘い。

横切片を鏡検するとき、柔組織内にはグッタペルカを含む柔細胞があり、師部には石細胞層及び繊維層を認め、放射組織は2～3細胞列からなり、シュウ酸カルシウムの結晶を含まない。

必要に応じて、「トチュウ」の確認試験を準用する。

（８） キョウカツ やや湾曲した円柱形～円錐形を呈し、長さ3～10cm、径5～20mm、ときに根茎は分枝する。外面は黄褐色～暗褐色である。根茎はその頂端にやや円形にくぼんだ茎の跡があり、ときには短い茎の残基を付け、外面には隆起した節があり、節間は、通例、短い。節にはいぼ状突起となった根の跡がある。根の外面には粗い縦じわ及びいぼ状突起となった側根の跡がある。質は軽くややもろくて折りやすい。横切面には多くの放射状の裂け目があり、皮部は黄褐色～褐色、木部は淡黄色～淡灰黄色、髄は灰白色～淡褐色を呈し、ルーペ視するとき、皮部及び髄には油道による褐色の細点を認める。特異なおいがあり、味は初めわずかに酸味があり、後にやや辛く、わずかに麻痺性である。

横切片を鏡検するとき、最外層は数層～十数層のコルク層からなり、その内側に数層の厚角組織がある。皮層には多数の油道があり、大きいものでは径が 300 μ m に達する。また皮層には放射状に大きなすき間がある。髄にも油道があり、大きいものでは径が 500 μ m に達する。柔組織中には単粒及び2～3個の複粒のでんぷん粒を含む。

必要に応じて、「キョウカツ」の確認試験を準用する。

（９） センキュウ 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径5～25 μ m のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

（１０） トウキ 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は4～10層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個

集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μm 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μm に達し、しばしばのり化している。

(11) ゴシツ 表面は灰黄色～黄褐色で、多数の縦じわがある。切断面は灰白色～淡褐色を呈し、黄白色の木部を認める。味はわずかに甘く、粘液性である。

横切片を鏡検するとき、皮部はやや明らかな形成層によって木部と区別できる。木部の中心には小さい原生木部があり、これを囲んで同心円状の環状維管束が外方に配列し、柔細胞の中にはシュウ酸カルシウムの砂晶を含み、でんぷん粒は認めない。

必要に応じて、「ゴシツ」の確認試験を準用する。

(12) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2～4cm、径 1～2cm である。外面は灰黄色～灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色～暗褐色で透明感があり角質である。横断面をルーペ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

(13) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ように柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(13) オウギ 外面は淡灰黄色～淡褐黄色で、不規則なあらい縦じわがあり、折面は繊維性である。横断面をルーペ視するとき、最外層には周皮があり、皮部は淡黄白色、木部は淡黄色、形成層付近はやや褐色を帯びる。木部から皮部にわたって白色の放射組織が認められる。太いものではしばしば多数の放射状の裂け目となっている。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(14) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(15) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なにおいがあり、味は甘い。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.23】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ハンゲ	3.0g
	〃	ケイヒ	3.0g
	〃	カンゾウ	2.0～3.0g
		全量	8.0～9.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	のどの痛み，扁桃炎，のどのあれ，声がれ		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	半夏散及湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **ハンゲ** 外面は白色～灰白黄色，上部には茎の跡がくぼみとなり，その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。横断面は白色，粉性である。味は初めなく，やや粘液性で，後に強いえぐ味を残す。

横切片を鏡検するとき，主としてでんぷん粒を充満した柔組織からなり，わずかにシュウ酸カルシウムの束晶を含んだ粘液細胞がその間に認められる。でんぷん粒は主として 2～3 個の複粒で，通例，径 10～15μm，単粒は通例径 3～7μm である。束晶は長さ 25～150μm である。

(2) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し，内面は赤褐色を呈し，平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり，味は甘く，辛く，後にやや粘液性で，わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき，一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され，環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い，環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥

厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(3) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.24】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	ビャクジュツ	4.0g
	〃	ブシ	0.3～1.0g
	〃	カンゾウ	1.0～2.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	タイソウ	3.0g
全 量			9.3～11.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、手足が冷え、ときに頻尿があるものの次の諸症：筋肉痛、関節のはれや痛み、神経痛、しびれ、めまい、感冒		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	白朮附子湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(2) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラーゲンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られる

スポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(3) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり，切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では，皮部と木部の境界はほぼ明らかで，放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき，皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し，師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し，道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い，ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み，またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか，又はその一部をはぎとってあり，表面は灰白色～淡灰褐色で，しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性，粉性で，淡帯黄褐色を呈し，皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき，その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり，味は極めて辛い。

(5) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか，又は暗灰赤色で細かいしわがあり，いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で，中果皮は暗灰褐色を呈し，海綿ようで柔らかく粘着性があり，内果皮は極めて堅く，種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり，味は甘い。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.25】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ブクリョウ	6.0g
	〃	キョウニン	4.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	全 量		11.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以下で、胸につかえがあるものの次の諸証：息切れ、胸の痛み、気管支ぜんそく、せき、動悸		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	茯苓杏仁甘草湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(2) **キョウニン** 種皮は褐色で、表面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があつて、粉をふいたようである。切断面は類白色である。味は苦く、油ようである。

表皮の表面を鏡検するとき、数個ずつ集合する石細胞はおおむね円形で、その細胞膜は均等に著しく厚くなり、径 60～90μm、側面視では鈍三角形で、細胞膜は先端部で著しく厚い。

必要に応じて、「キョウニン」の確認試験を準用する。

(3) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。

味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 4%以下。

【No.26】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ブクリョウ	4.0g
	〃	カンゾウ	2.0g
	〃	カンキョウ	2.0g
	〃	ニンジン	2.0g
	〃	ブシ	0.3～1.0g
	全 量		10.3～11.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱あるいは体力が消耗し、手足が冷えるものの次の諸症：倦怠感、急・慢性胃腸炎、下痢、はきけ、尿量減少		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	茯苓四逆湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(2) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかなで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列

の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(3) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2～4cm、径 1～2cm である。外面は灰黄色～灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色～暗褐色で透明感があり角質である。横切面をルーペ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

(4) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(5) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦とときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破砕されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 5%以下。

【No.27】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	ブシ	0.3～1.0g
	〃	ハンゲ	4.0g
	〃	タイソウ	3.0g
	〃	カンゾウ	1.0～1.5g
	〃	コウベイ	7.0g
全 量			15.3～16.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、腹部が冷えて痛み、腹が鳴るものの次の諸症：胃痛、腹痛、嘔吐、急性胃腸炎		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	附子粳米湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で，長さ 15～30mm，径 12～16mm，又は縦とときに横に切断され，長さ 20～60mm，幅 15～40mm，厚さ 200～700μm，又は径 12mm 以下の不整な多角形に破砕されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く，通例，しわはなく，切面は平らで，淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し，通常角質，半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき，外側から擬上皮，一次皮層，内皮，二次皮層，形成層，木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形，短径 30～75μm，長径 60～150μm の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり，木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中

に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋，階紋，網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて，「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし，その重量を精密に量り，これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後，1 時間振とうし，ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後，前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い，全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後，分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し，水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ，これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後，クロロホルムを合わせ，これに水 10mL を加え洗った後，クロロホルム層を分取し，無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し，減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り，クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り，10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき，薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL，標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として，約 10cm 展開しこれを風乾した後，噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき，試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても，標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(2) ハンゲ 外面は白色～灰白黄色，上部には茎の跡がくぼみとなり，その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。横断面は白色，粉性である。味は初めなく，やや粘液性で，後に強いえぐ味を残す。

横切片を鏡検するとき，主としてでんぷん粒を充満した柔組織からなり，わずかにシュウ酸カルシウムの束晶を含んだ粘液細胞がその間に認められる。でんぷん粒は主として 2 ～3 個の複粒で，通例，径 10～15 μ m，単粒は通例径 3～7 μ m である。束晶は長さ 25～150 μ m である。

(3) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(4) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(5) コウベイ 楕円形を呈し、やや扁平で、長さ 4～6mm である。外面は半透明で、淡黄白色～淡褐色を呈する。一端はわずかにくぼみ、白色の胚が認められる。他端には花柱の跡に由来する褐色の小点が認められる。表面には数本の長軸方向に走るみぞがある。弱いにおいがあり、味はわずかに甘い。

横切片を鏡検するとき、最外層は果皮で、果皮中に維管束を認める。種皮は果皮と癒着し、その内側に 1～2 層のアリューロン層を認める。内胚乳の柔細胞中に単粒又は複粒のでんぷん粒を認める。

必要に応じて、「コウベイ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 4%以下。

【No.28】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ニンジン	2.0g
	〃	トウキ	4.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	局外生規	シオン	2.0g
	日本薬局方	オウギ	2.0g
	〃	バクモンドウ	6.0g
	〃	ゴミシ	1.5g
	〃	カンゾウ	1.5g
		全量	22.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で，出血傾向があり，せき，息切れがあるものの次の諸症：鼻血，歯肉からの出血，痔出血，気管支炎		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規 格 及 び 試 験 方 法	別記のとおり。		
備 考	扶脾生脈散料		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **ニンジン** 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し，縦じわがあり，横断面は淡黄褐色を呈し，形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり，味は初めわずかに甘く，後にやや苦い。

必要に応じて，「ニンジン」の確認試験を準用する。

(2) **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で，縦じわがあり，切断面は淡黄色～黄褐色を

呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μm 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μm に達し、しばしばのり化している。

(3) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(4) シオン 外面は淡褐色～帯紫褐色を呈し、切断面は褐色～淡褐色である。根の径は 1～2mm で、根には細かい縦じわがあり、質はやや柔軟である。特異なおいがあり、味はわずかに苦くてややえぐい。

必要に応じて、局外生規「シオン」の確認試験を準用する。

(5) オウギ 外面は淡灰黄色～淡褐黄色で、不規則なあらい縦じわがあり、折面は繊維性である。横断面をルーペ視するとき、最外層には周皮があり、皮部は淡黄白色、木部は淡黄色、形成層付近はやや褐色を帯びる。木部から皮部にわたって白色の放射組織が認められる。太いものではしばしば多数の放射状の裂け目となっている。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(6) バクモンドウ 紡錘形を呈し、長さ 10～25mm、径 3～5mm、一端はややとがり、他端はやや丸みを持ち、外面は淡黄色～淡黄褐色で、大小の縦じわがある。皮層は柔軟性でもろく、中心柱は強じんで折りにくい。皮層の折面は淡黄褐色を呈し、やや半透明で粘着性がある。味はわずかに甘く、粘着性である。

(7) ゴミシ 暗赤色～黒褐色を呈し、表面にはしわがあり、またしばしば白い粉を付ける。果肉を除くとじん臓形の種子 1～2 個を認め、その外種皮は黄褐色～暗赤褐色を呈し、つやがあり、堅くてもろい。外種皮はたやすくはがれるが、内種皮は胚乳に密着し、背面に明らかな縫線を認める。酸味があり、後に渋くて苦い。

(8) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.29】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	カンゾウ	2.0g
	〃	ニンジン	2.0g
	〃	ケイヒ	4.0g
	〃	ゴシュユ	2.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	ハンゲ	4.0g
	全 量		15.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1 包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で，下腹部から動悸が胸やのどに突き上げる感じがするものの次の諸症：発作性の動悸，不安神経症		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	奔豚湯（肘後方）		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

（１） **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり，切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では，皮部と木部の境界はほぼ明らかで，放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき，皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し，師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し，道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い，ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中

にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(2) **ニンジン** 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(3) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(4) **ゴシュユ** 偏球形又は球形を呈し、外面は暗褐色～灰褐色、多くの油室がくぼんだ小点として認められ、その中心には花柱の残基があるが、しばしばこれは脱落している。果柄は長さ 2～5mm で、灰緑色の毛を密生している。果皮は、通例、開裂し、予房は 5 室に分かれ、各室中には倒卵球形又は球形の褐色～黒褐色又は帯青黒色のつやのある種子がある。特異なおいがあり、味は辛く、後に残留性の苦味がある。

必要に応じて、「ゴシュユ」の確認試験を準用する。

(5) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(6) **ハンゲ** 外面は白色～灰白黄色、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。横断面は白色、粉性である。味は初めなく、やや粘液性で、後に強いえぐ味を残す。

横切片を鏡検するとき、主としてでんぷん粒を充満した柔組織からなり、わずかにシュウ酸カルシウムの束晶を含んだ粘液細胞がその間に認められる。でんぷん粒は主として 2～3 個の複粒で、通例、径 10～15 μm 、単粒は通例径 3～7 μm である。束晶は長さ 25～150 μm である。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.30】 K●●

成分及び分 又は本質	日本薬局方	マオウ	2.0～4.0g
	〃	サイシン	3.0g
	〃	ブシ	0.3～1.0g
	全量		5.3～8.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品1包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を3回に分けて食間に服用する。上記は大人の1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、手足に冷えがあり、ときに悪寒があるものの次の諸症：感冒、アレルギー性鼻炎、気管支炎、気管支ぜんそく、神経痛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	麻黄附子細辛湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(2) **サイシン** 根の外表面は淡褐色で、径約 1mm、切断面は黄白色である。根茎は不整に湾曲し外表面は暗褐色を呈する。特異なおいがあり、味は辛く舌をやや麻ひする。

(3) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに

横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置したのち、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。また、この残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液漏斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えてよく振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 10%以下。

【No.31】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ボウイ	4.0g
	〃	セッコウ	10.0g
	〃	ケイヒ	3.0g
	〃	ニンジシ	3.0g
	全量		20.0g
製造方法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品1包に水約500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を3回に分けて食間に服用する。上記は大人の1日量である。 15才未満7才以上 大人の2/3, 7才未満4才以上 大人の1/2, 4才未満2才以上 大人の1/3, 2才未満 大人の1/4以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上で、みぞおちがつかえ、血色すぐれないものの次の諸症： 動悸，息切れ，気管支ぜんそく，むくみ		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備考	木防已湯		

規格及び試験方法

性状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ボウイ** 外面は暗灰褐色を呈し、縦みぞがあり、横断面の外部は暗灰褐色のコルク層でおおわれ、内部には灰褐色の道管部と暗褐色の放射組織とが交互に放射状に配列する。味は苦い。

横切片を鏡検するとき、一次皮部にはシュウ酸カルシウムの針晶を含み、一次皮部及び内しょうには著しく膜の厚い石細胞が認められ、道管部では大小の道管がほぼ階段状に配列する。放射組織の細胞の大部分は木化せず、径3～10μmのでんぷん粒及びシュウ酸カルシウムの小針晶を含み、ところどころに極めて厚膜の大きな石細胞が散在する。

必要に応じて、「ボウイ」の確認試験を準用する。

(2) **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(3) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(4) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 設定しない

【No. 31—①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ボウイ	4.0g
	〃	セッコウ	10.0g
	〃	ケイヒ	3.0g
	〃	チクセツニンジン	4.0g
	全量		21.0g
製造方法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品1包に水約500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を3回に分けて食間に服用する。上記は大人の1日量である。 15才未満 7才以上 大人の2/3, 7才未満 4才以上 大人の1/2, 4才未満 2才以上 大人の1/3, 2才未満 大人の1/4以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上で、みぞおちがつかえ、血色すぐれないものの次の諸症： 動悸，息切れ，気管支ぜんそく，むくみ		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備考	木防已湯（竹参）		

規格及び試験方法

性状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

（１） **ボウイ** 外面は暗灰褐色を呈し、縦みぞがあり、横断面の外部は暗灰褐色のコルク層でおおわれ、内部には灰褐色の道管部と暗褐色の放射組織とが交互に放射状に配列する。味は苦い。

横切片を鏡検するとき、一次皮部にはシュウ酸カルシウムの針晶を含み、一次皮部及び内しょうには著しく膜の厚い石細胞が認められ、道管部では大小の道管がほぼ階段状に配列する。放射組織の細胞の大部分は木化せず、径3～10μmのでんぷん粒及びシュウ酸カルシウムの小針晶を含み、ところどころに極めて厚膜の大きな石細胞が散在する。

必要に応じて、「ボウイ」の確認試験を準用する。

（２） **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(3) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(4) チクセツニンジン 外面は淡黄褐色で、質は堅く、横断面はほぼ平らで淡黄褐色を呈し、角質ようである。弱いにおいがあり、味はわずかに苦い。

必要に応じて、「チクセツニンジン」の確認試験を準用する。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 設定しない

【No.32】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ブクリョウ	4.0g
	〃	カンゾウ	1.2～2.0g
	〃	ハンゲ	4.0g
	〃	カンキョウ	2.0g
	〃	キョウニン	4.0g
	〃	ゴミシ	3.0g
	〃	サイシン	2.0g
	全 量		20.2～21.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1 包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度又はやや虚弱で、胃腸が弱り、冷え症で薄い水様のたんが多いものの次の諸症：気管支炎、気管支ぜんそく、動悸、息切れ、むくみ		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	苓甘姜味辛夏仁湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(2) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3

細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3~10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(3) ハンゲ 外面は白色~灰白黄色、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。横断面は白色、粉性である。味は初めなく、やや粘液性で、後に強いえぐ味を残す。

横切片を鏡検するとき、主としてでんぷん粒を充満した柔組織からなり、わずかにシュウ酸カルシウムの束晶を含んだ粘液細胞がその間に認められる。でんぷん粒は主として 2~3 個の複粒で、通例、径 10~15 μm 、単粒は通例径 3~7 μm である。束晶は長さ 25~150 μm である。

(4) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2~4cm、径 1~2cm である。外面は灰黄色~灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色~暗褐色で透明感があり角質である。横切面をルーペ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側より Cork 層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

(5) キョウニン 種皮は褐色で、表面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があつて、粉をふいたようである。切断面は類白色である。味は苦く、油ようである。

表皮の表面を鏡検するとき、数個ずつ集合する石細胞はおおむね円形で、その細胞膜は均等に著しく厚くなり、径 60~90 μm 、側面視では鈍三角形で、細胞膜は先端部で著しく厚い。

必要に応じて、「キョウニン」の確認試験を準用する。

(6) ゴミシ 暗赤色~黒褐色を呈し、表面にはしわがあり、またしばしば白い粉を付ける。果肉を除くとじん臓形の種子 1~2 個を認め、その外種皮は黄褐色~暗赤褐色を呈し、つやがあり、堅くてもろい。外種皮はたやすくはがれるが、内種皮は胚乳に密着し、背面に

明らかな縫線を認める。酸味があり，後に渋くて苦い。

（７） **サイシン** 根の外面は淡褐色で，径約 1mm，切断面は黄白色である。根茎は不整に湾曲し外面は暗褐色を呈する。特異なにおいがあり，味は辛く舌をやや麻ひする。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 5%以下。

【No.33】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ブクリョウ	6.0g
	〃	カンゾウ	2.0g
	〃	ケイヒ	4.0g
	〃	ゴミシ	3.0g
	全 量		15.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で，手足が冷えて顔が赤くなるものの次の諸症：のぼせ，動悸，からぜき，のどのふさがり感，耳のふさがり感		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	苓桂味甘湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で，質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて，「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(2) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり，切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では，皮部と木部の境界はほぼ明らかで，放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき，皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し，師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し，道管は結晶細胞列で囲まれた木部

繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(3) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(6) ゴミシ 暗赤色～黒褐色を呈し、表面にはしわがあり、またしばしば白い粉を付ける。果肉を除くとじん臓形の種子 1～2 個を認め、その外種皮は黄褐色～暗赤褐色を呈し、つやがあり、堅くてもろい。外種皮はたやすくはがれるが、内種皮は胚乳に密着し、背面に明らかな縫線を認める。酸味があり、後に渋くて苦い。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 4%以下。

【No.34】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	マオウ	4.0 ～ 6.0g
	〃	セッコウ	8.0g
	〃	ビャクジュツ	4.0g
	〃	ブシ	0.3 ～ 1.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	カンゾウ	1.5 ～ 2.0g
	〃	タイソウ	3.0g
	全 量		21.8 ～ 25.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上で、冷えがあつて、むくみがあり、のどが渇き、汗が出て、ときに尿量が減少するものの次の諸症：むくみ、関節のはれや痛み、筋肉痛、湿疹・皮膚炎、夜尿症、目のかゆみ・痛み		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	越婢加朮附湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は淡くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(2) **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(3) **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髄を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髄及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(4) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗

う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水（28）を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4：1：5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

（５） ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

（６） カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

（７） タイソウ 外面は赤褐色であらいいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようでも柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおい

があり，味は甘い。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 設定しない

【No. 34—①】 K●●—①

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	マオウ	6.0g
	〃	セッコウ	8.0g
	〃	ソウジュツ	4.0g
	〃	ブシ	0.3～1.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	カンゾウ	1.5～2.0g
	〃	タイソウ	3.0g
全 量			21.8～25.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1包に水約 500mLを加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3，7才未満 4才以上 大人の 1/2，4才未満 2才以上 大人の 1/3，2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以上で、冷えがあつて、むくみがあり、のどが渇き、汗が出て、ときに尿量が減少するものの次の諸症：むくみ、関節のはれや痛み、筋肉痛、湿疹・皮膚炎、夜尿症、目のかゆみ・痛み		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規 格 及 び 試 験 方 法	別記のとおり。		
備 考	越婢加朮附湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し，長さ 3～10mm，径 1～2mm，淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり，節部には，長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し，その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき，円形～だ円形で，周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し，中心部には赤緑色の物質が充満しているか，又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く，やや麻ひ性である。

必要に応じて，「マオウ」の確認試験を準用する。

(2) **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(3) **ソウジュツ** 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(4) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破砕されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水

硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4：1：5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(5) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(6) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(7) タイソウ 外面は赤褐色であらいいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 設定しない

【No.35】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	ケイヒ	4.0g
	〃	シャクヤク	4.0g
	〃	カンゾウ	2.0g
	〃	マオウ	5.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	タイソウ	3.0g
	〃	セッコウ	8.0g
	〃	ソウジュツ	4.0g
	〃	ブシ	1.0g
全 量			32.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下のものの次の諸症：関節のはれや痛み		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	桂枝越婢湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中に

は油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(2) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかなで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) マオウ 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(5) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(6) タイソウ 外面は赤褐色であらいいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(7) セッコウ 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕く

とたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(8) ソウジュツ 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(9) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロ

ロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4： 1： 5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 設定しない

【No.36】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ケイヒ	2.5g
	〃	シャクヤク	2.5g
	〃	マオウ	2.5g
	〃	カンゾウ	2.5g
	〃	タイソウ	3.0g
	〃	セッコウ	3.0g
	〃	<u>シ ョ ウ キ ョ ウ</u>	<u>1.0g</u>
	全 量		17.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1 包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度で、のどが渇き、汗が出るものの次の諸症：感冒、頭痛、腰痛、筋肉痛、関節のはれや痛み		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	桂枝二越婢一湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なにおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中に

はでんぶん粒を含む。

(2) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(4) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぶん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(5) **タイソウ** 外面は赤褐色であらいいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(6) **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(7) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管

束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり，味は極めて辛い。

乾燥減量 20%以下。

灰 分 設定しない

【No.37】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ケイヒ	2.5g
	〃	シャクヤク	2.5g
	〃	カンゾウ	2.5g
	〃	マオウ	2.5g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	タイソウ	3.0g
	〃	セッコウ	3.0g
	〃	ビャクジュツ	3.0g
	〃	ブシ	0.5～1.0g
全 量			20.5～21.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で、冷えがあつて、のどが渇き、汗が出て、ときに尿量が減少するものの次の諸症：関節のはれや痛み、筋肉痛、腰痛、頭痛		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	桂枝二越婢一湯加朮附		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なにおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥

厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(2) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) マオウ 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(5) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(6) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(7) **セッコウ** 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くとたやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(8) **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

(9) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破砕されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髓中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置したのち、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。また、この残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液漏斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロ

ホルム 50mL を加えてよく振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4：1：5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 設定しない

【No. 37—①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ケイヒ	2.5g
	〃	シャクヤク	2.5g
	〃	カンゾウ	2.5g
	〃	マオウ	2.5g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	タイソウ	3.0g
	〃	セッコウ	3.0g
	〃	ソウジュツ	3.0g
	〃	ブシ	0.5～1.0g
全 量			20.5～21.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で、冷えがあつて、のどが渴き、汗が出て、ときに尿量が減少するものの次の諸症：関節のはれや痛み、筋肉痛、腰痛、頭痛		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	桂枝二越婢一湯加朮附		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中に

は油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(2) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(3) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(4) マオウ 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻痺性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(5) ショウキョウ 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(6) タイソウ 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(7) セッコウ 光沢のある白色の重い繊維状結晶塊で、におい及び味はない。砕くと

たやすく針状～微細結晶性の粉末となる。水に溶けにくい。

必要に応じて、「セッコウ」の確認試験を準用する。

(8) ソウジュツ 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(9) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置したのち、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。また、この残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液漏斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えてよく振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロ

ロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4：1：5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラーゲンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 設定しない

【No.38】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	マオウ	2.0 ~ 3.0g
	〃	ボウイ	2.0g
	〃	ニンジン	2.0g
	〃	オウゴン	2.0g
	〃	ケイヒ	3.0g
	〃	カンゾウ	1.0 ~ 3.0g
	〃	シャクヤク	2.0g
	〃	センキュウ	2.0g
	〃	キョウニン	3.0g
	〃	ブシ	0.3 ~ 0.6g
	〃	ボウフウ	2.0g
	〃	ショウキョウ	2.0g
	全 量		23.3 ~ 26.6g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1 包として製する。		
用法及び用量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下のものの次の諸症：しびれ、筋力低下、気管支ぜんそく、気管支炎		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	小続命湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し，長さ 3～10mm，径 1～2mm，淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり，節部には，長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し，その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色

～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(2) ボウイ 外面は暗灰褐色を呈し、縦みぞがあり、横断面の外部は暗灰褐色の Cork 層でおおわれ、内部には灰褐色の道管部と暗褐色の放射組織とが交互に放射状に配列する。味は苦い。

横切片を鏡検するとき、一次皮部にはシュウ酸カルシウムの針晶を含み、一次皮部及び内しょうには著しく膜の厚い石細胞が認められ、道管部では大小の道管がほぼ階段状に配列する。放射組織の細胞の大部分は木化せず、径 3～10 μ m のでんぷん粒及びシュウ酸カルシウムの小針晶を含み、ところどころに極めて厚膜の大きな石細胞が散在する。

必要に応じて、「ボウイ」の確認試験を準用する。

(3) ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(4) オウゴン 外面は黄褐色～暗褐色を呈し、切断面は黄色～帯褐黄色を呈し、縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて、「オウゴン」の確認試験を準用する。

(5) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしば U 字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(6) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部

には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(7) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(8) **センキュウ** 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～25 μm のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(9) **キョウニン** 種皮は褐色で、表面にはすれて落ちやすい石細胞となった表皮細胞があつて、粉をふいたようである。切断面は類白色である。味は苦く、油ようである。

表皮の表面を鏡検するとき、数個ずつ集合する石細胞はおおむね円形で、その細胞膜は均等に著しく厚くなり、径 60～90 μm 、側面視では鈍三角形で、細胞膜は先端部で著しく厚い。

必要に応じて、「キョウニン」の確認試験を準用する。

(10) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μm 、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破砕されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μm 、長径 60～150 μm の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(11) **ボウフウ** 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(12) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡帯黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

乾燥減量 15%以下。

灰分 6%以下。

【No.39】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	サイコ	6.0g
	〃	ハンゲ	4.0g
	〃	ショウキョウ	1.0g
	〃	オウゴン	3.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	タイソウ	3.0g
	〃	キジツ	2.0g
	全 量		22.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上で、脇腹からみぞおちあたりにかけて苦しいものの次の諸症：胃炎、高血圧や肥満に伴う肩こり・頭痛、神経症		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	大柴胡湯去大黄		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **サイコ** 外面は灰褐色～褐色で、深いしわがあるものがあり、横断面では、皮部は褐色、木部は淡褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部にはしばしば接線方向に長い裂け目があり、皮部の厚さは半径の 1/3～1/2 で、径 15～35μm の胞間性離生油道がやや多数散在し、木部には道管が放射状若しくはほぼ階段状に配列し、ところどころに繊維群があり、根頭部の髄には皮部と同様の油道がある。柔細胞中にはでんぷん粒を満たし、また油滴を認める。

必要に応じて、「サイコ」の確認試験を準用する。

(2) **ハンゲ** 外面は白色～灰白黄色，上部には茎の跡がくぼみとなり，その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。横断面は白色，粉性である。味は初めなく，やや粘液性で，後に強いえぐ味を残す。

横切片を鏡検するとき，主としてでんぷん粒を充満した柔組織からなり，わずかにシュウ酸カルシウムの束晶を含んだ粘液細胞がその間に認められる。でんぷん粒は主として 2～3 個の複粒で，通例，径 10～15 μm ，単粒は通例径 3～7 μm である。束晶は長さ 25～150 μm である。

(3) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか，又はその一部をはぎとってあり，表面は灰白色～淡灰褐色で，しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性，粉性で，淡帯黄褐色を呈し，皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき，その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり，味は極めて辛い。

(4) **オウゴン** 外面は黄褐色～暗褐色を呈し，切断面は黄色～帯褐黄色を呈し，縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて，「オウゴン」の確認試験を準用する。

(5) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し，横断面はち密で淡灰褐色を呈し，木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり，味は初めわずかに甘く，後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて，「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(6) **タイソウ** 外面は赤褐色であらいしわがあるか，又は暗灰赤色で細かいしわがあり，いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で，中果皮は暗灰褐色を呈し，海綿ようで柔らかく粘着性があり，内果皮は極めて堅く，種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり，味は甘い。

(7) **キジツ** 外面は濃緑褐色～褐色で，つやがなく，油室による多数のくぼんだ細点がある。切断面は淡灰褐色を呈し，内果皮を付ける部分は褐色を呈する。特異なおいがあり，味は苦い。

必要に応じて，「キジツ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.40】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	レンギョウ	3.0g
	〃	ソウジュツ	3.0g
	〃	センキュウ	3.0g
	〃	ボウフウ	2.0g
	〃	ニンドウ	2.0g
	〃	ケイガイ	1.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	コウカ	1.0g
	全 量		16.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり，1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で，下痢傾向があるものの顔面，頭部などの皮膚疾患で，ときにかゆみ，分泌物などがあるものの次の諸症：湿疹・皮膚炎，乳幼児の湿疹・皮膚炎		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	治頭瘡一方去大黄		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なにおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **レンギョウ** 外面は淡褐色～暗褐色を呈し，淡灰色の小隆起点が散在し，内面は黄褐色である。特異な芳香があり，味はわずかに収れん性である。

必要に応じて，「レンギョウ」の確認試験を準用する。

(2) **ソウジュツ** 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分

泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

(3) センキュウ 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～25 μm のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(4) ボウフウ 外面は淡褐色で、多数の縦じわがある。横断面の周辺は灰褐色で、空げきが多く、中央は円形に黄色を呈する。味はわずかに甘い。

(5) ニンドウ 葉及び短い茎に対生する葉からなる。葉は短い葉柄を付け、楕円形で全縁、長さ 3～7cm、幅 1～3cm、上面は緑褐色、下面は淡灰緑色を呈し、ルーペ視するとき、両面に軟毛をまばらに認める。茎は径 1～4mm、外面は灰黄褐色～帯紫褐色で、横切面は円形、中空である。ほとんどおいがなく、味は収れん性で、後わずかに苦い。

葉の横切片を鏡検するとき、最外層は上下面とも 1 層の表皮からなり、表皮には単細胞性の非腺毛と多細胞性の腺毛が認められる。主脈部では、表皮の内側数層は厚角組織からなり、中央部には維管束がある。葉肉部では上面表皮に接してさく状組織があり、下面表皮に接して海綿状組織がある。腺毛には褐色の分泌物が含まれ、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの集晶を含み、でんぷん粒が認められることがある。

必要に応じて、「ニンドウ」の確認試験を準用する。

(6) ケイガイ 茎、輪散花序に集合したがつ筒、これら及びときには葉の碎片、種子のような微粒の分果からなる。茎は方形で外面はおおむね紫褐色、径約 1mm である。がつ筒は淡褐色～黄緑色で長さ 2～3mm、ルーペ視するとき、先端はきょ歯辺、筒部には数条の線があり、唇形花又は果実を含み、茎とともに類白色の短毛を認める。分果は黄褐色～黒色、両端の細いだ円体で長さ 1～1.5mm、径は長さのほぼ 1/2 である。特異な芳香があり、口に含むとわずかに清涼感がある。

必要に応じて、「ケイガイ」の確認試験を準用する。

(7) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。

味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(8) コウカ 赤色～赤褐色の花冠，花柄，黄色の花柱及び雄しべからなり，全長は約 1cm，花冠は筒状で 5 裂し，雄しべは 5 本で，長い柱頭をもつ雌しべを囲んでいる。花粉はほぼ球形で，径約 50 μ m，黄色で表面に細かい突起がある。特異なおいがあり，味はわずかに苦い。

必要に応じて，「コウカ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.41】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	トウキ	3.0g
	〃	タクシャ	4.0g
	〃	センキュウ	3.0g
	〃	ブシ	0.4g
	〃	シャクヤク	4.0g
	〃	ブクリョウ	4.0g
	〃	ビャクジュツ	4.0g
	全 量		22.4g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力虚弱で、冷えが強く、貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸などがあるものの次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後あるいは流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）、めまい・立ちくらみ、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ、耳鳴り		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	当帰芍薬散加附子		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験（Ⅰ） 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

（１） **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。

形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19 μ m 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は 25 μ m に達し、しばしばのり化している。

(2) タクシャ 淡黄褐色～淡褐色でコルク層をつける部位はやや暗色を呈する。ルーペ視するとき、褐色～淡褐色のはん点が散在する。切面は粒状で、繊維性ではない。わずかににおい及び味がある。

(3) センキュウ 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5～25 μ m のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(4) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗

う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水（28）を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4：1：5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラッグエンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

（5） **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

（6） **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

（7） **ビャクジュツ** 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師部の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髄を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髄及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「ビャクジュツ」の確認試験を準用する。

確認試験（Ⅱ）

（1） **トウキ** 本品の粉末 2g にジエチルエーテル 10mL を加え、還流冷却器を付け、

水浴上で 10 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別に「トウキ」の粉末 1g をとり、試料溶液と同様に操作して対照溶液とする。

これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び対照溶液 10mL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロロホルム・アセトン混液（4：2）を展開溶媒として約 10cm 展開した後、薄層板を風乾する。

これに紫外線（主波長 365nm）照射をするとき、*R_f* 値約 0.76 付近に紫色蛍光のスポットを認める。

（２） シャクヤク 本品の粉末 2g にメタノール 10mL を加え、還流冷却器を付け、水浴上で 10 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別に「シャクヤク」の粉末 1g をとり、試料溶液と同様に操作して対照溶液とする。

これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び対照溶液 10μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にトルエン・ギ酸・ギ酸エチル混液（3：1：6）を展開溶媒として約 10cm 展開した後、薄層板を風乾する。

これに塩化鉄（Ⅲ）試液を均等に噴霧するとき、*R_f* 値約 0.59 付近に暗紫色のスポットを認める。

（３） センキュウ 本品の粉末 2g にジエチルエーテル 10mL を加え、還流冷却器を付け、水浴上で 10 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別に「センキュウ」の粉末 1g をとり、試料溶液と同様に操作して対照溶液とする。

これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び対照溶液 10μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロロホルム・アセトン・ギ酸混液（4：2：0.5）を展開溶媒として約 10cm 展開した後、薄層板を風乾する。

これに紫外線（主波長 365nm）照射をするとき、*R_f* 値約 0.59 付近に紫色のスポットを認める。

（４） バクジュツ 本品の粉末 2g にヘキサン 10mL を加え、還流冷却器を付け、水浴上で 10 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別に「バクジュツ」の粉末 1g をとり、試料溶液と同様に操作して対照溶液とする。

これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び対照溶液 10μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にヘキサン・ベンゼン・酢酸エチル混液（14：3：3）を展開溶媒として約 10cm 展開した後、薄

層板を風乾する。

これに *p*-ジメチルアミノベンズアルデヒド試液を均等に噴霧し、105℃で 5 分間加熱するとき、*Rf* 値約 0.66 付近に紅色のスポットを認める。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No. 41—①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	トウキ	3.0g
	〃	タクシャ	4.0g
	〃	センキュウ	3.0g
	〃	ブシ	0.4g
	〃	シャクヤク	4.0g
	〃	ブクリョウ	4.0g
	〃	ソウジュツ	4.0g
	全 量		22.4g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、冷えが強く、貧血の傾向があり疲労しやすく、ときに下腹部痛、頭重、めまい、肩こり、耳鳴り、動悸などがあるものの次の諸症：月経不順、月経異常、月経痛、更年期障害、産前産後あるいは流産による障害（貧血、疲労倦怠、めまい、むくみ）、めまい・立ちくらみ、頭重、肩こり、腰痛、足腰の冷え症、しもやけ、むくみ、しみ、耳鳴り		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	当帰芍薬散加附子		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験（Ⅰ） 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

（１） **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で、縦じわがあり、切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに甘く、後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき、コルク層は 4～10 層からなり、その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり、明らかに皮部と木部とを区別する。木

部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し、その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが、中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 $19\mu\text{m}$ 以下、まれに 2～5 個の複粒があり、複粒の径は $25\mu\text{m}$ に達し、しばしばのり化している。

(2) **タクシャ** 淡黄褐色～淡褐色でコルク層をつける部位はやや暗色を呈する。ルーペ視するとき、褐色～淡褐色のはん点が散在する。切面は粒状で、繊維性ではない。わずかににおい及び味がある。

(3) **センキュウ** 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なにおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 $5\sim 25\mu\text{m}$ のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(7) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ $15\sim 30\text{mm}$ 、径 $12\sim 16\text{mm}$ 、又は縦ときに横に切断され、長さ $20\sim 60\text{mm}$ 、幅 $15\sim 40\text{mm}$ 、厚さ $200\sim 700\mu\text{m}$ 、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なにおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 $30\sim 75\mu\text{m}$ 、長径 $60\sim 150\mu\text{m}$ の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($\text{C}_{34}\text{H}_{47}\text{O}_{11}\text{N}$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロ

ホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(5) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(6) ブクリョウ 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色で、質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

(7) ソウジュツ 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髄及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

確認試験 (II)

(1) トウキ 本品の粉末 2g にジエチルエーテル 10mL を加え、還流冷却器を付け、水浴上で 10 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別に「トウキ」の粉末 1g をとり、試料溶液と同様に操作して対照溶液とする。

これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び対照溶液

10mL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロロホルム・アセトン混液（4：2）を展開溶媒として約 10cm 展開した後、薄層板を風乾する。

これに紫外線（主波長 365nm）照射をするとき、*Rf* 値約 0.76 付近に紫色蛍光のスポットを認める。

（２） シャクヤク 本品の粉末 2g にメタノール 10mL を加え、還流冷却器を付け、水浴上で 10 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別に「シャクヤク」の粉末 1g をとり、試料溶液と同様に操作して対照溶液とする。

これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び対照溶液 10μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポットする。次にトルエン・ギ酸・ギ酸エチル混液（3：1：6）を展開溶媒として約 10cm 展開した後、薄層板を風乾する。

これに塩化鉄（Ⅲ）試液を均等に噴霧するとき、*Rf* 値約 0.59 付近に暗紫色のスポットを認める。

（３） センキュウ 本品の粉末 2g にジエチルエーテル 10mL を加え、還流冷却器を付け、水浴上で 10 分間加熱し、冷後、ろ過し、ろ液を試料溶液とする。

別に「センキュウ」の粉末 1g をとり、試料溶液と同様に操作して対照溶液とする。

これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び対照溶液 10μL ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル（蛍光剤入り）を用いて調製した薄層板にスポットする。次にクロロホルム・アセトン・ギ酸混液（4：2：0.5）を展開溶媒として約 10cm 展開した後、薄層板を風乾する。

これに紫外線（主波長 365nm）照射をするとき、*Rf* 値約 0.59 付近に紫色のスポットを認める。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 6%以下。

【No.42】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ニンジン	3.0g
	〃	ブシ	0.5～1.0g
	〃	カンキョウ	3.0g
	〃	カンゾウ	2.0～3.0g
	〃	ビャクジュツ	3.0g
全 量			11.5～13.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3, 7 才未満 4 才以上 大人の 1/2, 4 才未満 2 才以上 大人の 1/3, 2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、手足の冷えが強く、疲れやすいものの次の諸症：胃腸虚弱、下痢、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	附子理中湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ニンジン** 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(2) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700μm、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破砕されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μm 、長径 60～150 μm の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($\text{C}_{34}\text{H}_{47}\text{O}_{11}\text{N}$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μL 及び 15 μL を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μL を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μL を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(3) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2～4cm、径 1～2cm である。外面は灰黄色～灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色～暗褐色で透明感があり角質である。横切面をル

一ぺ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

(4) カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髓がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(5) バクジュツ 外面は淡灰黄色～淡黄白色で、ところどころ灰褐色を呈し、横切面には淡黄褐色～褐色の分泌物による細点がある。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中にはしばしば師管の外側に接して繊維束があり、放射組織の末端部には淡褐色～褐色の内容物を含む油室がある。木部には大きい髓を囲んで放射状に配列した短径の道管とそれを囲む著しい繊維束がある。髓及び放射組織中には皮部と同様な油室があり、柔組織中にはイヌリンの小球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

必要に応じて、「バクジュツ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No. 42—①】 K●●—①

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ニンジン	3.0g
	〃	ブシ	0.5～1.0g
	〃	カンキョウ	2.0g
	〃	カンゾウ	2.0～3.0g
	〃	ソウジュツ	3.0g
	全 量		10.5～12.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力虚弱で、手足の冷えが強く、疲れやすいものの次の諸症：胃腸虚弱、下痢、嘔吐、胃痛、腹痛、急・慢性胃炎		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	附子理中湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **ニンジン** 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

(2) **ブシ** 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700μm、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μm 、長径 60～150 μm の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($\text{C}_{34}\text{H}_{47}\text{O}_{11}\text{N}$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μL 及び 15 μL を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水 (4 : 1 : 5) の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μL を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μL を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

(3) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2～4cm、径 1～2cm である。外面は灰黄色～灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色～暗褐色で透明感があり角質である。横切面をル

一ぺ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

（４） カンゾウ 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髓がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

（５） ソウジュツ 外面は暗灰褐色～暗黄褐色である。横断面は淡褐色～赤褐色の分泌物による細点を認める。しばしば白色綿状の結晶を析出する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部の柔組織中には、通例、繊維束を欠き、放射組織の末端部には淡褐色～黄褐色の内容物を含む油室がある。木部は形成層に接して道管を囲んだ繊維束が放射状に配列し、髓及び放射組織中には皮部と同様な油室がある。柔細胞中にはイヌリンの球晶及びシュウ酸カルシウムの針晶を含む。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.43】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	トウキ	6.0g
	〃	サイコ	5.0g
	〃	オウゴン	3.0g
	〃	カンゾウ	1.5～2.0g
	〃	ショウマ	1.5g
全 量			17.0～17.5g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度又はやや虚弱なものの次の諸症：痔核（いぼ痔），きれ痔，軽度の脱肛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	乙字湯去大黄		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

（１） **トウキ** 外面は暗褐色～赤褐色で，縦じわがあり，切断面は淡黄色～黄褐色を呈する。特異なおいがあり，味はわずかに甘く，後にやや辛い。

横切片を鏡検するとき，コルク層は 4～10 層からなり，その内側に数層の厚角組織が続いている。皮部には分泌細胞に囲まれた多数の樹脂道並びにしばしば大きなすき間がある。形成層は長方形に偏圧された数層の細胞からなり，明らかに皮部と木部とを区別する。木部では多数の道管と放射組織とが交互に放射状に配列し，その外方の道管は単独又は数個集まってやや密に配列してくさび状をなすが，中心部付近の道管は極めてまばらに存在する。でんぷん粒は径 19μm 以下，まれに 2～5 個の複粒があり，複粒の径は 25μm に達し，しばしばのり化している。

(2) **サイコ** 外面は灰褐色～褐色で、深いしわがあるものがあり、横断面では、皮部は褐色、木部は淡褐色を呈する。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部にはしばしば接線方向に長い裂け目があり、皮部の厚さは半径の $1/3 \sim 1/2$ で、径 $15 \sim 35\mu\text{m}$ の胞間性離生油道がやや多数散在し、木部には道管が放射状若しくはほぼ階段状に配列し、ところどころに繊維群があり、根頭部の髄には皮部と同様の油道がある。柔細胞中にはでんぷん粒を満たし、また油滴を認める。

必要に応じて、「サイコ」の確認試験を準用する。

(3) **オウゴン** 外面は黄褐色～暗褐色を呈し、切断面は黄色～帯褐黄色を呈し、縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて、「オウゴン」の確認試験を準用する。

(4) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(5) **ショウマ** 外面は暗褐色を呈し、切断面では木部は淡褐色～灰褐色繊維性で、網目状を呈する。質は軽い。味は苦くてわずかに渋い。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.44】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	ケイヒ	5.0g
	〃	エンゴサク	4.0g
	〃	ボレイ	4.0g
	〃	ウイキョウ	2.0g
	〃	シュクシャ	1.5g
	〃	カンゾウ	1.0～1.5g
	〃	リョウキョウ	0.7g
	〃	ブクリョウ	5.0g
全 量			23.2～23.7g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3，7才未満 4才以上 大人の 1/2，4才未満 2才以上 大人の 1/3，2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力中等度以下で，腹部は力がなくて，神経過敏で胃痛又は腹痛があつて，ときに胸やけや，げっぷ，胃もたれ，食欲不振，はきけ，嘔吐などを伴うものの次の諸症：神経性胃炎，慢性胃炎，胃腸虚弱		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規 格 及 び 試 験 方 法	別記のとおり。		
備 考	安中散加茯苓		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

(1) **ケイヒ** 外面は暗赤褐色を呈し，内面は赤褐色を呈し，平滑である。横断面はやや繊維性で赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり，味は甘く，辛く，後にやや粘液性で，わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき，一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され，環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い，環の各石細胞の壁はしばしばU字形に肥

厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及びでんぷん粒を含む。放射組織中には微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞がある。

(2) **ボレイ** 薄い小片に砕いた貝がらで、外面は淡緑灰褐色、内面は乳白色を呈する。ほとんどにおい及び味はない。

必要に応じて、「ボレイ」の確認試験を準用する。

(3) **シュクシャ** ほぼ球形又はだ円形を呈し、長さ 1~1.5cm、径 0.8~1cm、外面は灰褐色~暗褐色を呈し、石灰を散布して乾燥したものは白粉を付けている。種子塊は薄い膜で三部に分かれ、各部には仮種皮によって接合する 10~20 粒の種子がある。種子は多角形の粒状で、長さ 0.3~0.5cm、径約 0.3cm、外面には暗褐色で多数の細かい突起があり、質は堅い。種子を縫線に沿って縦断し、ルーペ視するとき、切面は細長く、へそは深くくぼみ、合点はややくぼんでいる。外乳は白色で、淡黄色の内乳及び胚を包み、胚は細長い。かめば特異な芳香があり、味は辛い。

(4) **エンゴサク** ほぼ偏球形又はこぶ状突起のある多角形を呈し、径 1~2cm で、一端に茎の跡がある。外面は灰黄色又は灰褐色で質は堅く、切断面は黄色で平滑又は灰黄緑色で粒状である。味は苦い。

必要に応じて、「エンゴサク」の確認試験を準用する。

(5) **ウイキョウ** 双懸果で長円柱形を呈し、長さ 3.5~8mm、幅 1~2.5mm である。外面は灰黄緑色~灰黄色で、互いに密接する 2 個の分果の各々には 5 本の隆起線がある。双懸果はしばしば長さ 2~10mm の果柄を付ける。特異なにおい及び味がある。

横切片を鏡検するとき、腹面に近い隆起線は背面のものより著しく隆起し、各隆起線間に 1 個の大きな油道があり、腹面には 2 個の油道がある。

(6) **カンゾウ** 外面(周皮)は暗褐色~赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1~3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3~10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(7) **リョウキョウ** やや湾曲した円柱形を呈し、しばしば分枝する。長さ 2～8cm、径 6～15mm である。外面は赤褐色～暗褐色を呈し、細かい縦じわ及び灰白色の輪節があり、ところどころに細根の跡がある。質は堅くて折りにくい。折面は淡褐色を呈し、繊維性で、皮層部の厚さは中心柱の径とほぼ等しい。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、最外層は表皮からなり、表皮細胞にはしばしば樹脂様物質を含む。表皮につづき、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は 1 層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には褐色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶を含み、単粒のでんぷん粒は、卵円形、楕円形、又は長卵形でへそは偏在し、径 10～40 μ m である。2～8 粒からなる複粒も含まれる。

必要に応じて、「リョウキョウ」の確認試験を準用する。

(8) **ブクリョウ** 白色又はわずかに淡赤色を帯びた白色である。外層が残存するものは暗褐色～暗赤褐色で、きめがあらく、裂け目がある。質は堅いが砕きやすい。味はないがやや粘液ようである。

必要に応じて、「ブクリョウ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 設定しない（既収載K-1安中散に倣う）

灰 分 設定しない（既収載K-1安中散に倣う）

【No.45】 K●●

成分及び分量 又は本質	日本薬局方	サイコ	6.0g
	〃	ハンゲ	3.5g
	〃	オウゴン	3.0g
	〃	ケイヒ	5.0g
	〃	シャクヤク	3.0g
	〃	カッコン	6.0g
	〃	マオウ	2.0g
	〃	チクセツニンジン	2.0g
	〃	カンゾウ	1.0g
	〃	タイソウ	1.2g
	〃	ショウキョウ	2.5g
	〃	センキュウ	3.0g
	〃	シンイ	2.0g
	全 量		40.2g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり，1包として製する。		
用法及び用量	本品 1 包に水約 500mL を加えて，半量ぐらいまで煎じつめ，煎じかすを除き，煎液を 3 回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1 日量である。 15 才未満 7 才以上 大人の 2/3，7 才未満 4 才以上 大人の 1/2，4 才未満 2 才以上 大人の 1/3，2 才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以上のものの次の諸症：慢性に経過した鼻炎，蓄膿症（副鼻腔炎）		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	柴葛湯加川芎辛夷		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1 包を白紙上に広げ，各生薬を外観的に選別し，それぞれの生薬につき，次の試験を行う。

（１） **サイコ** 外面は淡褐色～褐色で，深いしわがあるものがあり，横断面では，皮部は褐色，木部は淡褐色を呈する。特異なおいがあり，味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部にはしばしば接線方向に長い裂け目があり、皮部の厚さは半径の $1/3 \sim 1/2$ で、径 $15 \sim 35\mu\text{m}$ の胞間性離生油道がやや多数散在する。木部には道管が放射状若しくはほぼ階段状に配列し、ところどころに繊維群があり、根頭部の髄には皮部と同様の油道がある。柔細胞中にはでんぷん粒及び油滴を認める。

必要に応じて、「サイコ」の確認試験を準用する。

(2) ハンゲ 外面は白色～灰白黄色、上部には茎の跡がくぼみとなり、その周辺には根の跡がくぼんだ細点となっている。横断面は白色、粉性である。味は初めなく、やや粘液性で、後に強いえぐ味を残す。

横切片を鏡検するとき、主としてでんぷん粒を充満した柔組織からなり、わずかにシュウ酸カルシウムの束晶を含んだ粘液細胞がその間に認められる。でんぷん粒は主として 2～3 個の複粒で、通例、径 $10 \sim 15\mu\text{m}$ 、単粒は通例径 $3 \sim 7\mu\text{m}$ である。束晶は長さ $25 \sim 150\mu\text{m}$ である。

(3) オウゴン 外面は黄褐色を呈し、切断面は黄色～黄褐色を呈し、縦に繊維性のすじが見られる。味はわずかに苦い。

必要に応じて、「オウゴン」の確認試験を準用する。

(4) ケイヒ 外面は暗赤褐色を呈し、内面は赤褐色を呈し、平滑である。横断面は赤褐色を呈し淡褐色の薄層が見られる。特異なおいがあり、味は甘く、辛く、後にやや粘液性で、わずかに収れん性である。

横切片を鏡検するとき、一次皮部と二次皮部はほとんど連続した石細胞環で区分され、環の外辺にはほぼ円形に結集した繊維束を伴い、環の各石細胞の膜はしばしばU字形に肥厚する。二次皮部中には石細胞を認めず、まばらに少数の厚膜繊維を認める。柔組織中には油細胞、粘液細胞及び微細なシュウ酸カルシウムの針晶を含む細胞があり、柔細胞中にはでんぷん粒を含む。

(5) シャクヤク 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(6) カッコン 淡灰黄色～灰白色を呈し、繊維性でやや粉性である。味はわずかに甘い。横切片を鏡検するとき、師部には結晶細胞列を伴った繊維束、木部には道管及び木部繊維が著しく、柔組織を満たすでんぷん粒は長径 $2 \sim 18\mu\text{m}$ 、多くは $8 \sim 12\mu\text{m}$ の数面からなる多面体の単粒、まれに 2～3 個からなる複粒で、中央にへそ又は欠裂を認め、層紋がある。

(7) **マオウ** 細い円柱状又はだ円柱を呈し、長さ 3～10mm、径 1～2mm、淡緑色～黄緑色である。表面に多数の平行する縦みぞがあり、節部には、長さ 2～4mm の 2 枚のりん片状の葉が対生し、その基部は合着して筒状になっている。りん片状の葉の色は淡褐色～褐色である。茎の横断面をルーペ視するとき、円形～だ円形で、周囲部は灰緑色～黄緑色を呈し、中心部には赤緑色の物質が充満しているか、又は中空のところがある。味は渋くてわずかに苦く、やや麻ひ性である。

必要に応じて、「マオウ」の確認試験を準用する。

(8) **チクセツニンジン** 外面は淡黄褐色で、質は堅く、横断面はほぼ平らで淡黄褐色を呈し、角質ようである。弱いにおいがあり、味はわずかに苦い。

必要に応じて、「チクセツニンジン」の確認試験を準用する。

(9) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層の Cork 層とその内層に 1～3 細胞層の Cork 皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(10) **タイソウ** 外面は赤褐色であらいしわがあるか、又は暗灰赤色で細かいしわがあり、いずれもつやがある。外果皮は薄く革質で、中果皮は暗灰褐色を呈し、海綿ようで柔らかく粘着性があり、内果皮は極めて堅く、種子は偏平である。わずかに特異なおいがあり、味は甘い。

(11) **ショウキョウ** 淡灰黄色の周皮を付けたままか、又はその一部をはぎとってあり、表面は灰白色～淡灰褐色で、しばしば白粉を付けている。横断面は繊維性、粉性で、淡黄褐色を呈し、皮層と中心柱とに分かれる。横断面をルーペ視するとき、その全面に維管束及び分泌物が褐色の細点として散在している。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

(12) **センキュウ** 外面は灰褐色～暗褐色で、切断面は灰白色～灰褐色、半透明で、ときにはうつろがある。質は密で堅い。特異なおいがあり、味はわずかに苦い。

横切片を鏡検するとき、皮部及び髄には油道が散在する。木部には厚膜で木化した木部繊維が大小不同の群をなして存在する。でんぷん粒は、通例、のり化していて、まれに径 5

～25μm のでんぷん粒を認めることがある。シュウ酸カルシウム結晶は認めない。

(13) シンイ 紡錘形を呈し、長さ 15～45mm、中央の径 6～20mm、基部にしばしば木質の花柄を付ける。ほう葉は、通例、3 枚で、外面には毛がまばらにあって褐色～暗褐色を呈するか、又は密毛があって灰白色～淡黄褐色を呈し、内面は平滑で暗褐色を呈する。内部に 9 枚又は 12 枚の花被片があり、花被片は同形又は外側の 3 枚が小さい。雄ずいは 50～100 本あり、雌ずいも多数ある。質はもろい。特有のにおいがあり、味は辛くて、やや苦い。

必要に応じて、「シンイ」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.46】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	カンゾウ	2.0～3.0g
	〃	カンキョウ	2.0g
	〃	ブシ	0.5～1.0g
	〃	ニンジン	2.0g
	全 量		6.5～8.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破碎した生薬をとり、1包として製する。		
用 法 及 び 用 量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効 能 又 は 効 果	体力虚弱あるいは体力が消耗し、貧血気味で手足が冷えるもの の次の諸症：感冒、急・慢性胃腸炎、下痢、はきけ、貧血		
貯 蔵 方 法 及 び 有 効 期 間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	四逆加人参湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(2) カンキョウ 偏圧した不規則な塊状でしばしば分枝する。分枝した各部はやや湾曲した卵形又は長卵形を呈し、長さ 2～4cm、径 1～2cm である。外面は灰黄色～灰黄褐色で、しわ及び輪節がある。折面は褐色～暗褐色で透明感があり角質である。横切面をルーペ視するとき皮層と中心柱は区分され、全面に維管束が散在する。特異なおいがあり、味は極めて辛い。

横切片を鏡検するとき、外側よりコルク層、皮層、内皮、中心柱が認められる。皮層と中心柱は一層の内皮によって区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり、繊維束で囲まれた維管束が散在する。柔組織中には黄色の油様物質を含む油細胞が散在し、柔細胞中にはシュウ酸カルシウムの単晶が含まれ、でんぷんは糊化している。

必要に応じて、「カンキョウ」の確認試験を準用する。

(3) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破砕されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロ

ロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢酸・水（4：1：5）の混合溶液の上層を展開溶媒として、約 10cm 展開しこれを風乾した後、噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき、試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても、標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

（４） ニンジン 外面は淡黄褐色～淡灰褐色を呈し、縦じわがあり、横断面は淡黄褐色を呈し、形成層の付近は褐色を呈する。特異なにおいがあり、味は初めわずかに甘く、後にやや苦い。

必要に応じて、「ニンジン」の確認試験を準用する。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。

【No.47】 K●●

成分及び分量 又 は 本 質	日本薬局方	シャクヤク	3.0g
	〃	カンゾウ	3.0g
	〃	ブシ	0.3～1.0g
	全 量		6.3～7.0g
製 造 方 法	以上の切断又は破砕した生薬をとり、1包として製する。		
用法及び用量	本品 1包に水約 500mLを加えて、半量ぐらいまで煎じつめ、煎じかすを除き、煎液を 3回に分けて食間に服用する。上記は大人の 1日量である。 15才未満 7才以上 大人の 2/3, 7才未満 4才以上 大人の 1/2, 4才未満 2才以上 大人の 1/3, 2才未満 大人の 1/4 以下を服用する。		
効能又は効果	体力中等度以下で、冷えを伴うものの次の諸症：こむらがえり、筋肉のけいれん、胃痛、腹痛、腰痛、神経痛		
貯蔵方法及び有効期間	密閉容器		
規格及び試験方法	別記のとおり。		
備 考	芍薬甘草附子湯		

規 格 及 び 試 験 方 法

性 状 本品は特異なおいがある。

確認試験 本品 1包を白紙上に広げ、各生薬を外観的に選別し、それぞれの生薬につき、次の試験を行う。

(1) **シャクヤク** 外面は褐色～淡灰褐色を呈し、横断面はち密で淡灰褐色を呈し、木部には淡褐色の放射状の線がある。わずかに特異なおいがあり、味は初めわずかに甘く、後に渋くてわずかに苦い。

必要に応じて、「シャクヤク」の確認試験を準用する。

(2) **カンゾウ** 外面（周皮）は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、切断面は淡黄色で繊維質を呈する。横断面では、皮部と木部の境界はほぼ明らかなで、放射状の構造を現わす。味は甘い。

横切片を鏡検するとき、皮付きカンゾウでは黄褐色の多層のコルク層とその内層に 1～3 細胞層のコルク皮層がある。皮部には放射組織が退廃師部と交互に放射状に配列し、師部には結晶細胞列で囲まれた厚膜で木化不十分な師部繊維群がある。木部には 3～10 細胞列の放射組織が黄色で巨大な道管と交互に放射状に配列し、道管は結晶細胞列で囲まれた木

部繊維及び木部柔細胞を伴い、ストロンに基づくものでは柔細胞性の髄がある。柔細胞中にはでんぷん粒を含み、またしばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。皮去りカンゾウでは周皮及び師部の一部を欠いている。

(3) ブシ 本品はほぼ倒円錐形で、長さ 15～30mm、径 12～16mm、又は縦ときに横に切断され、長さ 20～60mm、幅 15～40mm、厚さ 200～700 μ m、又は径 12mm 以下の不整な多角形に破碎されている。外面は淡褐色～暗褐色又は黄褐色を呈する。質は堅く、通例、しわはなく、切面は平らで、淡褐色～暗褐色又は黄白色～淡黄褐色を呈し、通常角質、半透明で光沢がある。弱い特異なおいがある。

横切片及び縦切片を鏡検するとき、外側から擬上皮、一次皮層、内皮、二次皮層、形成層、木部が認められる。一次皮層には楕円形～楕円状四角形、短径 30～75 μ m、長径 60～150 μ m の厚壁細胞がある。内皮は接線方向に長い 1 層の細胞からなっている。形成層輪は星形又は不整の多角形～円形であり、木部の道管群は V 字形を呈する。二次皮層及び髄中に独立した形成層輪が認められるものもある。道管は孔紋、階紋、網紋又はらせん紋道管である。柔細胞中のでんぷん粒は糊化している。

必要に応じて、「ブシ」の確認試験を準用する。

純度試験 本品 1 包中のアコニチン ($C_{34}H_{47}O_{11}N$: 645.75) の残存量は 0.01mg 以下である。

本品 1 包を粉末とし、その重量を精密に量り、これにメタノール 50mL を加え一夜放置した後、1 時間振とうし、ろ紙を用いてろ過する。残渣に再びメタノール 30mL を加え 1 時間振とうした後、前記ろ紙を用いてろ過する。またこの残渣をメタノール 30mL で 2 回洗い、全量を合わせ減圧下でメタノールをほとんど留去する。残留物に希塩酸 10mL を加え水浴上で加温溶解する。冷後、分液ろう斗に脱脂綿を用いてろ過し、水 10mL で 2 回洗う。ろ液を合わせ、これにアンモニア水 (28) を加えてアルカリ性とする。これにクロロホルム 50mL を加えて良く振り混ぜた後に下層を分取する。この操作を 2 回繰り返した後、クロロホルムを合わせ、これに水 10mL を加え洗った後、クロロホルム層を分取し、無水硫酸ナトリウムを加えて脱水する。これをろ過し、減圧下で蒸発乾固する。残留物をクロロホルム 1mL に正確に溶かして試料溶液とする。

別にアコニチン 20mg を精密に量り、クロロホルム 10mL に溶かし正確にメスアップする。この溶液 1mL を正確に量り、10mL に正確に希釈し標準溶液とする。

試料溶液及び標準溶液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。あらかじめ薄層クロマトグラフ用シリカゲルを用いて 0.25mm の厚さに調製し活性化した薄層板に試料溶液 0.3mL、標準溶液 10 μ L 及び 15 μ L を正確に塗布する。次にブタノール・酢

酸・水（4： 1： 5）の混合溶液の上層を展開溶媒として，約 10cm 展開しこれを風乾した後，噴霧用ドラージェンドルフ試液を均等に噴霧するとき，試料溶液から得られるアコニチンに対応するスポットの濃さは標準溶液の 10 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃いことはあっても，標準溶液の 15 μ L を塗布した方から得られるスポットより濃くない。

乾燥減量 15%以下。

灰 分 7%以下。